

# 「死立探偵」

はせひんごち

## ◆登場人物◆

結城 又三郎

(廃業中の探偵)

知妹

(結城の同居人・高校生)

立花 朋美

(ウエイトレス)

和蔵 桂五

(カフェのマスター)

中西 なつみ

(カフェの客)

香山 カノコ

(結城の元助手)

キム ジェヨン

(結城の元部下)

星野 亮平

(現役の部長刑事)

宇海 小夜子

(結城の元妻)

笹本 千鶴

(結城の主治医)

赤川 はとこ

(謎の依頼人)

【SCENE / 1】 暗いままの舞台。女の声が先行する。

女の声 …とある田舎町の、とある小さな家の大晦日。母親に煙突の掃除を頼まれた働き者の兄弟がいましたとさ。兄弟2人は一生懸命に掃除をし、終わった時には手も服もススで真っ黒。でも顔は兄がススだらけなのに、弟の方はそれほどでもなかった。さて、真っ先に水道に向かい、顔を洗ったのはどっち？

木造の趣を生かしたカフェ「わくら」の店内。テーブル席が2、3とカウンターの作り。店の出入り口、厨房への切り穴、の外に、舞台奥には「結城事務所」と書かれた小さなプレートある扉。以上3つの出入り口を持つ空間。一つのテーブルを挟みウエイトレ

ス姿の立花朋美と女子学生風の中西なつみが椅子に腰掛けている。離れたテーブルには黒いワンピースの女性客(赤川はとこ)。

立花朋美 第4問。ジャジャン。

中西なつみ 遅いですって、それ。

朋美 うん。また忘れてた。

なつみ えっと…ススまみれが兄ですよ。

朋美 そうそう。

なつみ あれ？

朋美 判った？

なつみ 父親は不在なんですか？ もしや母子家庭？

朋美 ああ…や、関係なし。

なつみ そうなんだあ…じゃあ、弟。

朋美 ピンポーン。え、凄。何で何で？

なつみ あ、いや。普通だと兄だから、逆なのかなって。

朋美 なあんだ。ま、確かに二者択一だもんね…。

なつみ え、何ですか？

朋美 うん。つまり…

赤川はとこ ポイントは、自分では自分の顔が見えない事です。兄の汚れた顔を見て、きつと自分の顔も汚れているだろうと先に悟ったのは弟です。

朋美 …すごい、お客さん…

はとこ あ、や…

なつみ あ、そうか。兄は逆に弟の顔を見て、大した事ないと思うんだ。

朋美 そうそう。

なつみ なるほどなるほど。

朋美 第5問、ジャジャン。

なつみ あ、や、今日はこの辺で…

朋美 とあるアメリカのダウンタウン。24時間営業のレストランの店を出した切れ者オーナーは、開店祝賀パーティーと題して、とある職種の人たちを無料招待した。このことでその店はその後、えらく繁盛したのだが、

さあその招かれた人たちは誰？

はとこ タクシー運転手ですね。

なつみ えっ？

朋美 凄い：  
はとこ 「深夜までご苦労様」ってねぎらいを込めてね。  
なつみ なるほど。美談がらみでマスコミも取り上げますよね。  
はとこ それもあるけど何より：

水のグラスを口に運ぶはとこ。この辺りでトレイを持ったこの店のマスター・和蔵桂五が登場。いつしかジャズが流れている。

和蔵桂五 朋ちゃん：

はとこ 深夜タクシーの乗客、すなわちバーやキャバレー帰りの客から「どこか美味しいものを食わせる店」を聞かれた時、迷わずその店に連れて行くわけですよ、奢られた運転手達は。

なつみ あ、そうかあ。

はとこ 90年代、ボストンシティーでの実例です。

朋美 お見事。

和蔵 朋ちゃん。

朋美 あ、すいません。

和蔵からトレイを受け継ぐ朋美。

朋美 お待たせしました。

はとこ あ、ども…。

和蔵 なつみちゃん大丈夫？

なつみ (時計を確認し) あ、やべ。ありがとうマスター。

朋美 え、バイト？

なつみ や、面接。あそこ首になっちゃって。

朋美 ああ、例の店長？

なつみ さすがに限界で。制服叩き付けちゃいましたよ。

朋美 ふーん…(マスターを見て) ココに太っ腹がいればねえ…

和蔵 (小刻みに首を振る)

なつみ ええ、ココなら完璧なんですけどね…

和蔵 (朋美を見て) トレードなら大歓迎なんだけどもね…

朋美 (小刻みに首を振る)

なつみ あ、じゃあチケットで。まじやばいし。  
朋美 うん。頑張ってるね。

足早に去るなつみ。なつみのテーブルを片し、厨房に去る朋美。

和蔵 何かお好みがあれば言ってください。

はとこ ああ、曲、ですか？

和蔵 ジャズなら一通りの揃えてるつもりです。どうも客ウズな時は、自分の趣味ばかりになってしまってます…

はとこ ソニー・クラーク、ですよ？

和蔵 ああ、はい。

はとこ どうぞそのままです。

和蔵 ありがとうございます。…(奥の事務所を示して) 結城さんですよ？

はとこ ……

和蔵 ああ、すいません。何となく雰囲気ですね。札がああなってる時は、お取次ぎしないルールになってますんで。

見れば扉のプレートに「SLEEP 〇 OUT」の文字。

はとこ なるほど…「就寝中」もしくは「外出」…どちらなんです？ 今は。

和蔵 さあ…ただ、その扉から出て行かれる方は、どちらかですね。肩を落として落胆してるか、憤慨して怒っていらつしやるか。特に最近は。

はとこ つまり、仕事を引き受けにはならないと…

和蔵 ええ、まあ…

少年。知妹(しらせ)が店の入り口から入室。横切ろうとするが扉前のはとこに気付き足を止める。

和蔵 お帰り。

知妹 ……うん。

足早に事務所へ去る知妹。ややあつて厨房から朋美。

はとこ 今回の憤慨の例ですか？ 扉には「入る方」だったようですが…

和蔵 いや、彼は特別でして…

はとこ 結城さんのご子息？

和蔵 うーん、まあ、似たようなものかもしれないんですが…

朋美 ああ？

和蔵 へ？ 何？

朋美 気をつけてくださいね、お客さん。こう見えて、めっちゃ広いですから、

はとこ ストライクゾーン。

朋美 はい？

和蔵 43歳、独身。

はとこ おい。

和蔵 ああ…

朋美 ねえ、結城って、外？ 中？

和蔵 さあ…少なくとも私が来てからは通ってませんけど、ココ。

朋美 あ、そ。

和蔵 え、じゃあ、お客さんなんですか？ 結城事務所の。

はとこ …ええ、まあ…

朋美 やめたほうがいいですよ。金と時間の無駄遣いです。

はとこ そうなんですか？

和蔵 ああ、朋ちゃん、休憩入っていいよ。少し早いけど。

朋美 ほうら出た。大胆な人払い。

和蔵 だから、そうじゃなくて…さてと、洗いモノが溜まっていますんで、

はとこ どうぞごゆっくり。

はとこ ああ、はい。

厨房に去る和蔵。

朋美 何かすいません、初めてのお客さんに。

はとこ ああ、いえいえ。

朋美 やっぱ理屈臭いですかねえ、私。

はとこ えっと…

朋美 この間も友達から指摘されて…どうもココに勤めてると、どんどん

負けず嫌いになってくよう、特に議論とか。

はとこ さっきの論理パズルとか？

朋美 ああ、ええ。ココ、昼間はただの喫茶店なんですけど、夜の部は、そんな輩ばかりが集うんですね。マスターも含めて。

はとこ へえ…じゃあ、先ほどココにいらした若い女性も？

朋美 ああ、いえ、なつみちゃんもっばら昼のお客さんですね。近くの県

立大の学生さんで、先月辺りからちよく来てくれて…確か現代美

術専攻かな？

はとこ なるほど…昔からの常連ではないんですね。

朋美 さっきは私の「お題選び」に付き合ってもらって…え、なつみちゃん

が何か？

はとこ ああ、いえ…ちよつと知り合いに雰囲気似てたので…

朋美 へえ、そうなんですかあ…

はとこ 今の「お題」ってのは、やはり夜の部の？

朋美 ああ、ええ、ロールプレイングの企画なんですけど、今月私の当番で、

ネタを5つほど。

はとこ いわゆるゲームマスターってわけですね。

朋美 はい。昔は本格的なミステリー同好会みたいな感じだったらしいんですけど、今は…バラエティーのノリですね。

はとこ へえ。

朋美 あ、そうだ。覗いてみませんか？ 次の月例回。

はとこ ああ、夜の部の？

朋美 歓迎しますよ。お強そうだし。

はとこ ああ、いえ、さすがにそれは無理だけど…ネタなら一つ、提供し

ましようか？

朋美 え、ホントですか？ 助かります。

はとこ 少し不条理な設定だけど、バラエティーのノリならいいかな。

朋美 ぜひぜひ。

はとこ えっとね…とある町のコンビニに、深夜、いささかお間抜けな宇

宙人の面々が訪れたのね。

朋美 宇宙人ですか、ほんとに不条理ですね。

はとこ そう遠くない将来に地球を侵略するつもりな彼らは、もちろん地球

の下調べという目的を持っていたんだけど、実は彼らは酷い金属アレルギー

―だったのね。

**朋美** 面倒な宇宙人だなあ：

**はとこ** 仲間の一人が「ヒュル、ヒヤラ、キュウー」とか言って、適当な安い品物を数点見繕い、地球人を装いながら、レジに向かう。商品の合計は334円でした。さあ、お惚け宇宙人たちの行動理由を説明せよ。

**朋美** おっと、それだけですか？

**はとこ** 条件は全て出揃いましたね。

**朋美** えっと……適当な品を数点買ったんですよええ？

**はとこ** イエス。

**朋美** その合計が3百、いくらでしたっけ？

**はとこ** 334円です。

**朋美** うくん：消費税込み？

**はとこ** イエス。

**朋美** ……宇宙人が何故かコミカルなのは関係ありません？

**はとこ** いい質問ですね。間接的には大有りです。

**朋美** ああ、そうか、この問題自体がコミカルな要素を含んでいるんだ。

**はとこ** 凄い、流石ですね、その通りです。つまり、近い将来に地球を侵略しようとしている割には、人に危害を加えない基本方針がお惚けなわけですから、何かもつと他に良い方法はあるだろう、みたいな。

**朋美** ドクターランプ、アラレちゃんのペンギン村にいるニコチャン大王みたいな感じ？

**はとこ** や、その村に詳しくはないんですが：

**朋美** ほら、あれは名古屋弁？ 最初にアラレちゃんに会って、首が取れて人類怖がる、みたいな。

**はとこ** 首が取れるんですか？ アラレちゃん？

**朋美** ああ、全然知らないですね。

**はとこ** ええ、すいません。でも何となく雰囲気は似てると思いますよ。

**朋美** えっと……それに加えて、こいつらは金属アレルギーなんですよ。

**はとこ** イエス。

**朋美** あれ？

**はとこ** え、判りました？

**朋美** 宇宙船は金属じゃないんですか？ よく大気圏を越えられましたね？

**はとこ** ……ノー・プロブレム。

**朋美** ですよ……じゃあ残るは……

**男の声** まあアレルギーとはいえ、死ぬわけじゃないですしね。

**はとこ** えっ？

**朋美** ああ、先生……

店の入り口から、紙袋を抱えて登場する結城又三郎。

**結城又三郎** それと先ほどアナタは「条件が出揃った」とおっしゃったが、強いて言えば、とある小道具の入手方法が触れられていない。でも、それを

**朋美** 出題に含めると、大きなヒントになりすぎる。気持ちはお察ししますよ。

**結城** いやいや、だって、面白そうだったし。

**はとこ** (立ち上がった) さすが結城先生ですね。全てお察しの通りです。

まあ、あえて言い訳をすれば宇宙人のアレルギーが……

**朋美** ストップ！

**結城&はとこ** えっ？

**朋美** 止めてくださいよお。さつきから「死ぬわけじゃない」とか「とある小道具」とかって……

**結城** ああ、ああ。

**朋美** もう一言も喋らないで下さいね。アナタも。

**はとこ** ああ、はい。

**結城** だって、例会のネタなんですよ？ どうせ出題するの君だし。

**朋美** まだ十分時間はあります。とにかく喋らないで。

カウンターの移り思考を続ける朋美。この辺りで厨房から和蔵。

**結城** 実は仲間うちで一番負けず嫌いのノリノリは彼女なんです。

**はとこ** なるほど。

**和蔵** あれ？ 全然気付かなかった。外？

**結城** うん。(紙袋から1品抜いて、残りを手渡し) アテの足しにでも。

**和蔵** まいど……(袋の中身を見て) コレは大漁だな……仕掛け人？

**結城** や、懐かしき倅田來未。オレ、あの脚線美と相性いいみたい。

**和蔵** ふーん。ああ、そうそう。こちらお前の……

はとこ 「赤川はとこ」と申します。

結城 ああ、ええ、メールでは何度も…

和蔵 なんだ、そうだったの？

結城 何度もお断りしたはずですよ？ どういう手品か知らないが、メル

アドはもちろん、こんなところにまで押しかけて…

はとこ あら？ でもココはカフェでしょ？ ココまでは来店自由のはずです。

結城 ちッ。

和蔵 まあまあ、せっかく待ってもらってたんだし、話ぐらいはさあ。ねえ。

はとこ 恐縮です。

結城 ホント広いんだから、ストライクゾーン。

和蔵 あ、じゃあ、ココ閉めちやおうかな？ どうせ、もうすぐシエスタの

時間帯だし。ぜひココで。

結城 奥は？

和蔵 知妹がついさつき。

結城 ちッ…じゃあ少しだけ時間を割きますが、お話を聞くのは、他を紹介

するためだと思ってください。昔の仲間が結構手広くやってますので。

はとこ ええ、それで構いません。

結城 じゃあと…：…朋ちゃん、悪いけど少し外してくれないかな。時給は

ちゃんと付けさせるからさ。

朋美 えー、いや、でもなあ、外暑いし…：

はとこ 良ければ答えをお教えしましょうか？ 宇宙人たちの目的は…：

朋美 お疲れ様でした。

素早くエプロンを脱いで去る朋美。

和蔵 (朋美に) あ、表、クローズにしておいてね。

はとこ …どうもすいません。ご好意ありがとうございます。

和蔵 いえいえお安い御用ですよ。さてと、じゃあ改めて我々の自己紹介か

ら始めましょうか？…：

結城&はとこ (小刻みに首を振る)

和蔵 あ、やっぱね。ではごゆっくり…：

結城 立ち聞きもなしですよ。

和蔵 アンタじゃあるまいに。

厨房に去る和蔵。いつしか店内BGMは止んでいる。

結城 じゃあ、ま、どうぞ。

はとこ 恐縮です。

結城 手短に行きましようか、何か飲まれます？

はとこ いえ、これで。

結城 そう、じゃあちよつと失礼して…

カウンターの水をコップに注ぎ、自分も椅子へ向かう結城。ポケ

ットから先ほど抜いたパチンコの戦利品を取り出し。

結城 あ、食べます？

はとこ ああ、じゃあ…一つだけ。

アーモンドチョコのようなモノを頬張るはとこ。

結城 随分遠方からいらしたんですよねえ。

はとこ えっ？

結城 お金には不自由しておらず、社会的な仕事をしていらつしやる。少し

前まで喫煙の習慣をお持ちだった。

はとこ …(微笑んで)シャーロック・ホームズ、ですか？

結城 まさか、ただの余興です。

はとこ 依頼人に何かつまむものを勧め、その間に観察するわけね。

結城 や、ただのサービスです。早く納得してお帰りいただくための。

はとこ じゃあサービスついでに尋ねますが、他は高くないヒールや服装な

どで推察可能として、喫煙の根拠は？

結城 いわゆるアテ推量…ていうかデータラメです。机の上に小物入れとキー

ホルダーを置かれていますね。

はとこ ああ。

結城 それって、意外と普通の専業主婦はしないんです。遠出のための使い

慣れないバッグの時か、普段から打ち合わせの多いキャリアウーマン、も

しくは喫煙習慣の持ち主に多い。面倒だから全部羅列しただけのこと。

**はとこ** なるほど。無意識に衣類のポケットから出していました。

**結城** いずれもただの統計的な話、推理なんてものじゃない。……じゃあサービスはここまでとして、お話を伺いましょうか？

**はとこ** ええ……じゃあ、まずはコレを……

小ぶりのバックから封筒を取り出すはとこ。

**結城** 失礼……(中身を見て)……いきなり小切手ですか？

**はとこ** 先生の推理に敬意を表して。

**結城** ユニークな金額……しかも相場とは1桁違う。

**はとこ** 先生がお金で動かれないのは知っています。少しでも私の決意が伝わればと思ひまして。

**結城** つまり……あなたもお金で動いているわけではないと。……じゃあ、ま、とりあえず……

目の前で小切手を破る結城。

**はとこ** ……

**結城** 気を悪くならさないで下さいね。本当に3年前からきつぱり足を洗ってますので。

**はとこ** 正確には2年と10ヶ月前ですね。警視庁から極秘に依頼された、大瀬川の連続殺人。

**結城** ……関係者の方ですか？

**はとこ** (微笑んで)まさか。それに私が依頼したいのは、そんな物騒な事件ではありません。

**結城** ならば余計に願ひ下げですね。浮気調査に子猫の搜索、そんな物騒で無い事件にコレだけの金を用意する非常識なクライアントは、私の方針から外れています。

**はとこ** 思い出しませんか？ こうして直にお会いしても。

**結城** え……ハハ、それも、よくある手段ですね。出会い系何タラでもあるまいに……

**はとこ** 先生に探して欲しいのは……私です。

**結城** ……今なんて？

**はとこ** 私自身を探して欲しいのです。

**結城** ……それは……自分探しや精神医療なら、それこそ友人の範疇だが……

**はとこ** 私はココを出た直後から、行方を消すのです。

**結城** で、それを僕が？……ハハ、それは今流行りのパラエティーゲームですか？ 大規模な追いかっこ、いや、かくれんぼかな？

**はとこ** ええ、ある意味において。

**結城** なるほど。

**はとこ** そうですね、ある程度のルールは必要ですね。どうかしら、決して国外には逃亡しないことで……

**結城** 金持ちの道楽に付き合う暇は無い！

暫しの間。動揺を見せず、静かに紅茶の残りを口に運ぶはとこ。

**結城** どうかお帰り下さい。

**はとこ** 私がここから去るときはゲームの始まりなんです。

**結城** あなたねえ……

**はとこ** そして、これは先生にしか解決できない……なぜなら、この事件の賞味期限が半年だからです。

**結城** ……あんた……

**はとこ** ……いかがですか？ 昭和最後の名探偵、結城又三郎最後の事件……十分相応しいと思うのですが……

サスペンス色を助長するジャズの曲がカットイン。暫し見つめ合う2人。やがて先に視線を逸らした結城、厨房に向かつて。

**結城** ……何でコレが流れるかなあ？ このタイミングで。

**はとこ** えっ？

**結城** あ、いや……

**はとこ** ……じゃあ私は、早速ミステリートレインに乗り込むとしますね、最寄

の駅から。先生のお返事を待たずに。

**結城** 有無を言わずに訳ですか？

**はとこ** 信じてますので。先生ならきつと探してくださると。

**結城** や、しかし…

**はとこ** それと…(破られた小切手を集めながら)有無を言わさないついでに…これの変わりも何とか送金するようにしますね。大金過ぎて恐縮されないような方法で。ああ、そう、ココの支払いも含めて。

**結城** ……

**はとこ** (去りながら)そうそう「ワトソンさん」にもよろしく。

店を出るはとこ。残される結城。音楽がへたくそにフェイドアウトして和蔵がやってくる。

**和蔵** へへ、ばれちゃった。

**結城** いい年して、悪い趣味だ。

**和蔵** なんでえ、なかなかあそこでアレは選曲できませんよ。役者の驚きに合せて低めのカットイン。オペレーターの基本ね。

**結城** だから、そうじゃなくて…

**和蔵** へへ、「ワトソンさん」だって。へへ…

**結城** 喜ぶなよ…初めてだよ？ ココへは。

**和蔵** ああ、うん。1時半過ぎに来て……本当に見覚えはないの？

**結城** ああ、多分。にしても「半年」とはな…

**和蔵** ああ、うん…

**結城** どっから漏れてるかな？ 情報。

**和蔵** ああ、アンタの？…え、オレじゃないよ。確かにタイプだけど、そもそも今日は、時間的な余裕がなかった。

**結城** 千鶴さんはああ見えて口堅いしなあ。

**和蔵** ああ、主治医の……ま、でもこの時代だから……

**結城** いい線ついてくるよ、ミステリートレインとは。

**和蔵** えっ？

**結城** 来月オレが乗り込もうと思ってた。まさに同じ行動だ。

**和蔵** 結城……

**結城** ……

**和蔵** ただのファンじゃないのか？ 熱狂的な。意外に近くのゴージャスな

ホテルにチェックインしてたりして。

**結城** 胸のペンダント、小さなロケットになったただろ？

**和蔵** え、そうだった。

**結城** あれはエマーゲンシーカップセルだな。

**和蔵** エマーゲンシーって…あの、致死量の薬が入っていて、自殺志願者が常に携帯する？

**結城** 「いつでも死ぬる」って安心感がかえって死の願望を抑制するって理屈なんだけど……彼女の場合、ちとやばいかも。

**和蔵** そうなの？

**結城** ……2回ほど左手でそつと触れていた。極めつけのセリフの前にね。

**和蔵** え、じゃあ……

**結城** ホテルも外れだね。彼女、キーホルダーの小振りなカラビナに、小さな鍵を着けていた。4桁の数字が刻まれた青いプレート付きのね。

**和蔵** あ、コインロッカーだな。じゃあやつば駅に大きな荷物を預けて…

**結城** かなり神経質なタイプだな。…好みでしょ？

**和蔵** (小刻みに首を振る。縦に)

**結城** (ポケットを弄りながら) ロシアンティーはいくらだった？

**和蔵** え、380円だけ？

**結城** 良心的だね。面倒だから立て替えておく。

**和蔵** それは…引き受けるってこと？

**結城** ま、おいおい考えるさ。短いようで半年は……それなりの猶予があるからね。彼女にも、オレにも。

**和蔵** なるほど…

**結城** (去りながら)知妹に夕飯は特製パスタだって言っておいて。ちよつと具材とビール買ってくる。

**和蔵** ああ、うん。

店の外へ去る結城。店内を片している所へ、事務所からメールをしながら入室の知妹。察して振り向く和蔵。

**和蔵** ……よう。

**知妹** あいつは？

和蔵 ちよつと買出しに……あれ？ まさか立ち聞きじゃないよね？

知妹 え、何？ あ、何か不味い話？

和蔵 あ、いや……特製パスタだってよ。

知妹 うそ。またあれかよ……

和蔵 何？

知妹 雲丹とアスパラとホワイトソース。こつてりしてて3口で限界。

和蔵 へえ

知妹 ……アンタが作ってくればいいのに。

和蔵 またそういう事を言う。

知妹 あ、ねえ。ちよつといい？ ココ。

和蔵 いいけど。

知妹 何か奥、電波悪くて。何かかけておいてよ、古い音楽。

和蔵 ジャスって言うの。

知妹 何か落ち着く奴をさ。

和蔵 はいはい……（去りながら振り向き）あ、ねえ。

知妹 何？

和蔵 ワトソンって知ってる？

知妹 知らない？ 新しいソフト？

和蔵 や、いい。

知妹 あそ。

厨房へ去る和蔵。ややあつて楽曲。無人を確認して立ち上がり、店内のCDラックの中から一枚の紙切れを取り出す知妹。紙を広げ一瞥する姿を残し暗転。

【SCENE/2】 1ヶ月ほど経った「わくら」の店内。昼近い午前。奥のカウンターでモバイルPCを触っているキム・ジェヨン。前の空間をクマのように歩いている香山カノコ。カノコはなぜか朋美と同じウエイトレス用エプロンをしている。

香山カノコ あ、じゃあ、ネットへの逆アクセスは？ そろそろ向こうさん  
もじれてきたりして。

キム・ジェヨン 一応、結城さんからはダイレクトに提供してもらってるん

ですが、今のところノーヒットですね。

カノコ 如何わしいメールを装ってとかさあ。

キム 全部チェックしてますよ。文章の終わりにわざとスペース空けて、最

後にこっそり書き込まれてないかまで。

カノコ ふーん。

キム ま、だいたい普通のエロ系は臭いで判りますしね。

カノコ 匂いますか？ パソコンが。

キム そういう意味じゃなくて……

カノコ まだ彼女いないの？

キム ……そんな、ダイレクトな……

カノコ あつという間に3週間かあ……

キム え？ ああ……正確には、依頼人が姿を消して1ヶ月ですね。先生から

僕らが話を聞くまでにタイムラグがありますから。

カノコ 6分の1が空しく終わつたと……他の土地からは？

キム ええ。トミーの目撃情報以降はコレとって。

カノコ 仙台だっけ？

キム ええ。

カノコ あれだつて衣類の特徴が似てたつてだけでしょ？ オマケに見失つ

たつて……みな真面目にやつてんのかな？

キム ま、それなりに忙しいみたいですね。

カノコ ちゃんと伝えた？ キャッチフレーズ。

キム ああええ。全員に「結城又三郎・復活の事件」つて。

カノコ そう……

キム まあ、チーム解散して5年ですからね。昔は自慢のアナログネットワ

ークも、今はこうしてオンラインでやつてるわけだし……

カノコ そりやそうだけどさあ……あ、焼けた。

電子レンジの音に反応して厨房へ去るカノコ。

キム （厨房へ遠掛けで）髭の時任さん。

カノコの声 ああ、ホームレス専門。

キム 来月2人目だつて。また女の子。

カノコの声 へえ。……大阪？



キム や、神戸ですね。きつと小ざつぱりしてんだらうなあ。

トレイを2つ運ぶカノコ。一つは自分のテーブルに。

カノコ ほい。特製モーニング。

キム ああ、どうもすいません。

カノコ コーヒーお替りは？

キム いえ、まだ……でもいいんですかねえ？

カノコ 何が？

キム 厨房勝手に……

カノコ ああ、大丈夫よ、私がいたところはちゃんとモーニングの時間帯から

開けてただから。掃除ももつと隅々までやってたし……換気扇のシート、ベトベト。半年は換えてないね、あれは。

キム ああ、朋美ちゃん？

カノコ 何でさつさと首にしないかなあ、あんなガサツな女。

キム すっかり小姑ですなあ。

カノコ だって、私の居た頃は、私、先生の右腕をやりながらココもやってたんだよ？ 出来ないわけ無いじゃん。

キム ま、でも、今は事務所、開店休業なわけだし。助手はやろうにも……

カノコ はん。勤まるわけ無いじゃん、あの女に、探偵助手が。

キム ……カノコさん。

カノコ 何よ。

キム 凄く閉じてますよ。思考が。

カノコ ……それだけじゃないのさ。

キム と、言いますと。

カノコ あの女、何か先生を見る視線がね………だいたい何よ、あの宇宙人が出てくる問題は？ ミステリーってもんが全然わかつとらんでしょ。

キム 僕、前回欠席したから。

カノコ あ、そうだった。

キム でもあれですよね？ 宇宙人がコンビニ行く奴ですよ。

カノコ そうそう。

キム それって、例の謎の依頼人が去り際に出していったんじゃないかって。

カノコ うそ？ マスター？

キム いや、なつみちゃんって子から。

カノコ 誰それ？

キム 最近の常連さんみたいですね。

カノコ ああ、昼間の。

キム ええ、昼間の。

カノコ ふーん……あの女、例会ではそんな事は一言も言っていなかったぞ。あ、そうか、自分の手柄にしたかったってわけか……

キム まあまあ。

カノコ え、あんた昼間も顔出すの？

キム や、一度だけ。あ、そうそう例会無断で休んじゃったから、その挨拶がてらね。

カノコ 結構若い？

キム え、僕ですか？

カノコ 違うわよ、そのなつみって子。

キム ああ、大学生って話ですけど……

カノコ やつば昼間も顔出さんといかんなあ……

キム ……あの……

カノコ マスターもマスターよ。何よ、急に「私の事は今日から、ワトソンと呼ぶようにして」って、だれが呼ぶか！ だいたいホームズモノなんて古典でしょ？ 誰も知らないって。そもそも私を差し置いて何さ。誰がな

んと言っても私が「香」なんだから。ねえ。

キム えつと、誰です？ 香って？

カノコ だから、冴羽獠と言えば「香」でしょ？ シティーハンター。

キム ああ、何かありましたねえ、そんな古典が……あ。

カノコ ……ま、いいけどさあ……

キム 前から聞こうと思ってたんですけど。

カノコ だから何よ。

キム 肉体関係はあったんですか？ 結城さんと。

カノコ えっ？……

キム ……

カノコ ……

キム ……

カノコ はあ……あるわけないでしょ？ そんなもの。

キム なるほど。

カノコ 何よ。

キム プラトニックだったからこそ、後ろ髪引かれるケースってのもありませんからね。

カノコ お前なあ。

男の声 うつつす。

カノコがキムに殴りかかろうとした瞬間、店の入り口から、よれたスーツ姿の星野亮平。残暑の折、さすがに上着は肩にかけている。止む無く席に戻るカノコ。

カノコ これはこれは警部補殿。

星野亮平 だから昇格したんだって。補はなし。警部。ま、正式には課長補

佐なんだけどね……あれ？ マスターは？

カノコ 爆睡中。昨日遅かったらしくて。

星野 結城は？

無言で紙切れを渡すカノコ。

星野 「ちよっと出ます。ご自由に」って……こりや来ないな。

カノコ 何か飲む？

星野 ああ、じゃあブラックで。

足早に厨房へ去るカノコ。

星野 あれ？ でもじゃあココの鍵は？

キム (微妙に首をストレッチ)

星野 ……あ、(厨房へ) おい！……また使ったな、昔の合鍵を……

キム や、それも忘れたらしく、ヘアピンで。

星野 なんて奴らだ。

キム ま、それも承知で書置きしてあるんだから。

星野 ったく……それにしても、まさかお前と組むことになるとはな。泣き脅しのキム。結城の元でフラフラしてたお前が、今や警備コンサルタン

トの社長か？ 偉くなったもんだ。

キム 別に現職のアンタまで、首突っ込んでこなくていいんだけどね。

星野 まあまあ……意外と時間が取れちゃうんだな、一応、管理職だし。

キム 女房にも逃げられたしね。

星野 ……ちつ。相変わらずの地獄耳か？ まだ実家で待機中だ。

そう言いつつも。キムに近寄って画面を眺める星野。

星野 こんな小さいのでもパソコンなのか？

キム ええ、もちろん。今じゃ普通ですよ。

星野 流石に俺も持つてるんだけどさ、あんなに重くなるとはな。

キム えっと？

星野 ほら、最初に買ったときより重くなるだろ、使っていると。肩凝っちゃって。

キム え、そう？

星野 まあ、でも、そうだよな。どんどん情報が蓄積してくんだから。

キム や、それは……だって、

星野 ファイルとか言う四角い紙袋も結構増えてきたし……そろそろ買い替えかな？

キム ……や、ですから……

カノコ (登場して) それはアレじゃないの？ パソコンの重さじゃなくて、利用者が知らず知らず年取って、単に体力落ちてるだけじゃないの？

キム あ、実にナイスな回答。

星野 え、どういう事だよ。

カノコ はい、煎れたて。

星野 おお、サンキュー……(一口飲んで) ん、やっぱ美味しいなあ、カノコの煎れたのは。

カノコ (キムに) ほら。

キム や、だから……

星野 で、どうよ？ 進んだのか？ かつて詳細なデータ集めと大胆な推論で名を挙げた「チーム結城・二代目」の復活としては。

キム や、現時点では暗礁ですわね。

星野 ほう珍しく素直じゃない。

**キム** 推論に値するデータが圧倒的に不足してますからね……唯一明かされた「赤川はとこ」はもちろん、「青山こは」も全部キーワード検索かけてるんですけど……ああ、念のため「白山」も。

**星野** 何だそれ？ 青だの白だのってのは？

**カノコ** あらら、まだそこで足踏み？

**星野** ん？

**カノコ** だって「はとこ」はかなりの確率で偽名でしょ？

**星野** ま、確かに古風ではあるな。

**キム** だから、アナグラムの可能性アリってことで「こは」は、「それに準じて赤川を青山、もしくは白山。

**星野** 「はとこ」が「こは」……おー、鏡言葉ってやつね。

**カノコ** ただ、それもどうかと思ってるね。

**キム** と、言いますと？

**カノコ** うん。暇に任せて、他にも作れないか試してみたのね、3文字の女性名。例えば……「みさえ」が「えさみ」、「さくら」が「らくさ」って。

**キム** ああ、うん。

**カノコ** 意外にしっくりするのが少ないわけ。2文字なら簡単だけど。例えば「みえ」が「えみ」、「ちさ」が「さち」みたいにね。

**星野** (応じずコーヒーをすすする)

**カノコ** だから……ホントに本名が「こは」で、たまたまひっくり返して成立したってのも、いかなものかと。

**キム** つまり、どちらも、依頼人の創作ってわけか……

**星野** ……なあ、今のって、結城の発案？ 鏡言葉。

**カノコ** や、私たちだけで、きつと先生ならとづくに……

**星野** そうじゃなくて、それって結城の記憶に関わることでしょ？

**カノコ** どういうこと？

**星野** つまりさ、その女が結城を選んで依頼してる以上、最短のルート検索は結城の記憶って事でしょ？

**カノコ** ああ、まあ、確かに。つまり何が糸口になるか判らないから、できるだけ情報を共有したほうがいいわけだ。

**キム** じゃあ、その辺、整理してまとめてメールしておきます。

**カノコ** ……で、そっちは？

**星野** うん。まず、この店内に残ってた複数の指紋だけだね、オール白。つ

まり、過去の犯罪歴はナシ。

**キム** ま、足が付きそうなら手袋ぐらいするからな。

**カノコ** やけに時間掛かったじゃない、指紋ごときで。無駄な権力でサツ

と片付けられるでしょうが。

**星野** それは逆だよ。上手くこっそりもってかないと、大事にされやすいのよ。無駄な権力のセイだね。

**カノコ** どうだか。

**星野** そもそも科学捜査ってやつは、事が起きてからは絶大な威力を発揮するが、この手の、何だ？ 未然の事件にはめっぽう弱いから。

**カノコ** へえ、珍しく素直じゃん。

**星野** ま、大人だからね。

**カノコ** ふん。

**星野** 例の小切手にしてもさ、破くのは勝手だが、向こうに回収されちゃあ

みすみす手がかりを放棄したようなモンじゃん。結城らしくない。

**キム** 少なくとも口座名義や銀行は書いてあったはずだもんね。

**カノコ** ま、本物だったらね。

**星野** でもあれだろ？ 銀行への振込みはまだ続いてるんだろ？

**キム** ええ。決まって毎週火曜日の午後2時。期限の半年まで続けばかなりの額面になりそうですね。

**星野** 振込の場所も動いてる？

**キム** ちよつと待って下さいね。(PCを操作し) 最初が静岡の掛川で、次が

福井の三浜市、んで先週が、能代、秋田ですね。んで……あ、そうか今日

火曜だから……

**星野** 3時間後には全国どこかの旅先からってか？

**カノコ** 何とかならんのか？ 国家警察。

**星野** 無理無理。だいたい表現違うし。

**カノコ** 使えねえ。

**星野** 大金を引き降ろすならまだしも、振込みに捜査員は避けないでしょ。

**キム** でも、このデータからだど、依頼人は忠実に鬼ゴッコを楽しんでいる

ことになりませよね。静岡から北陸に抜けて日本海側を北上。それぞれに

1週間かけて移動して……

**カノコ** いい気なもんだ(サーバー持ってキムへ) ほい。

**キム** あ、どうも。

カノコ (キムに注ぎ) あんたは？

星野 や、いい……

キム ……あ、広島のシンさんから、カノコが一晩付き合うなら協力は惜しまないがって。知らせてないんだ。

カノコ はん。2歳の子連れでよければ喜んでって。

キム 承知。(キーボードを打つ)

カノコ 相変わらずだなあ、アイツも……って、チャットなの？

キム ええ、そうですよ。さつきから同窓会みたいになっちゃって。

カノコ だってそれって…パスワードは？

キム あってないようなモンですね。Y U U K I。結城だから。

カノコ それって、依頼人に対しても「どうぞ自由に覗いてください」って感じじゃない？ ねえ。

星野 (応じずコーヒーをすする)

キム 全部結城さんの指示ですから。それに、そもそも結城さんの個人ブログにも詳細書いてありますからね、事件の経緯は。

カノコ え、そうなん？

キム 「今日謎の依頼人がやってきた」から始まって日記風に。ま、一般読者は物語だと信じてるだろうけど。

カノコ ちょっと待ってよ、じゃあ…つまり、わざと依頼人に見せてるって？…なんでだ？……

キム さあ、そこまでは……

星野 ……なあ、この事件はどうやって終わるんだ？

カノコ えっ？

キム 何です？ いきなり。

星野 転々と移動する依頼人。それを結城が先回りして自殺を防いでめたしめでたし……そういう話なのか？

キム それは……

カノコ 確かに違和感はあるのよね……

星野 そもそも一番の違和感は「動機」でしょ？

キム えっと…依頼人ですよねえ？ そりゃあまあ、もともと不条理めいてるから……

星野 そうじゃなくて、結城が引き受ける動機よ。

キム えっ？…ああ。

星野 アイツがホイホイ受けるヤマじゃないだろ？ それともいつからか抽象的な哲学論者に鞍替えしたのか？

キム 確かに…そうか、先の記憶の件も含め…キーワードは先生本人ってことですね。

星野 ま、長年の隠居がたたって、すっかり探偵として焼きが回った、ってのが一番正解かもしれないけどね。

カノコ アンタねえ。

星野 もしくは、俺達にも何か隠してるか。

カノコ&キム ……

朋美 (登場して) お早うございます。あれ？

出勤姿の朋美が登場。目ざとくカノコのエプロンに気付く。

朋美 あくつ、これ、私の。ちよつとどういう事っすかあ？

カノコ (ガバツと脱ぎ捨てて) 私は嫌だからね。

星野&キム&朋美 えっ？

カノコ 不条理やら抽象論なんかに逃げ込ませへんよ。ちゃんと現実を引き戻してやる。なにせ結城又三郎・復活の事件なんだから。

キム カノコさん……

カノコ よし、方針決定。行くよ。

キム えっ？ フィールドですか？ 今から？

カノコ まずは張本人、結城又三郎を探す。

キム え、マジで？……

星野 行ってらっしゃい。

さっさと去るカノコ。慌てて片して去るキム。

星野 鍵、換えた方がいいんじゃない？

朋美 え？ ああ、表？

星野 ま、いいんだけど……

朋美 あの、確か星野さんですよねえ？ 警部補さんの。

星野 ああ、うん。ほら、先月の例会で…あ、「補」はとれたんだけどね……

朋美 これが郵便受けに入ってる……

星野 え、僕宛に？  
朋美 ただ、住所も切手もなく、ただ星野警部補殿とだけ……  
星野 ……どれ……（封筒から紙を出し、一読して）これは……

2人を残し、ストーンと暗転。

### 【SCENE / 3】

閉店後、深夜の「わくら」。暗い空間に何処からチリーンとベルの音。やがて奥の事務所扉が開き、部屋着姿の結城が入る。壁のスイッチを入れるが明るくならない。

結城 あれ？

「ま、いつか」って感じで中に進み、カウンター下の隠し棚から焼酎を探し出す結城。コップに注いで一飲み。再びチリーン。奥の高イスに、はとこが腰掛けている。手には小さなベル。ややあって、やつと人の気配を感じる結城。何処からか水琴窟の調べ。

結城 あれ？……なんだ、戻られたんですか？

はとこ ……

結城 通称「はとこ」さん……でしょ？

はとこ、首から提げたベルをチリーンと鳴らす。結城には背になつていてカウンターから白衣の下が黒づくめの、笹本千鶴がぬつと立ち上がる。

結城 （はとこに）ちよつと止めてくださいよお……僕そういうのは……

笹本千鶴 まだ飲んでるんだあ……

結城 うわお……千鶴先生……なんです？ それ。

見れば千鶴は変な提灯を持っている。自分でもそれにはじめて気づいたような仕草の千鶴。さらに逆側のカウンターにぶらぶら揺れているもの。女性の足のようだ。

結城 ちよつと悪趣味だなあ……そもそも何でお二人がそろつて？

宇海小夜子 （ストーンと床に下りる）

結城 えっ？……小夜子？

小夜子 知妹は？

結城 えっ？

小夜子 私の息子、知妹は？

結城 ……何言ってるんだ、小夜子。俺達の息子は亮太だろ？ そもそもお

前、知妹とは……

はとこ 混乱してるね。

千鶴 うん。混乱してる。

小夜子 混乱してるわ、アナタ。

結城 ……小夜子じゃない、のか？

千鶴 ま、脳みそに爆弾抱えてちや無理もない。

結城 先生……誰にも言わないようつて、あれほど……

千鶴 （変な提灯で変な顔）

結城 死んじゃったんですか？ 先生。

千鶴 あの医者にも困ったものだ。

結城 えっ？

千鶴 余命をズバリと当てやがる。それにしても……

はとこ&小夜子 お前もお前だ。

結城 えっ？

はとこ 己の死の前に、探偵気取りにもほどがある。

結城 それは……

小夜子 知妹をかえして。

結城 何？

小夜子 あなたの傍においておけば、またあの子は死んでしまう……

結城 お前……

小夜子 そう、私達の大切な亮太のように。

結城 ……これは……夢なんだな？

はとこ 夢だつて。

小夜子 夢かあ。

千鶴 へえ夢なんだ……

小夜子 夢と判つていても降りられない。

千鶴 そう、これはお前のミステリートレイン、脳みその中を見えないゴールを目指して迷走する。

チリーンを鳴らすはとこ。軽い頭痛を覚える結城。

はとこ まだ思い出せませんか？ 私を。

結城 何？

はとこ 条件は全て出揃いました。

結城 アンタ：やっぱ知ってたのか？ オレの期限を：

はとこ 期限を切ったのは私です、あなたではない。

結城 えっ？

千鶴 混乱してるね。

小夜子 やっぱ、混乱してるんだ。

千鶴 アンタが消えれば世界も消える。

小夜子 観測者あつての世界と宇宙。

はとこ そういう風に出てくる。

千鶴 どうせいつかは死ぬんだし。

小夜子 ヒトを救っても死ぬんだし。

千鶴 神も仏も消えちゃうし。

小夜子 どうせ夢だと判っているし。

はとこ もうすでに、

千鶴&小夜子 狂い始めてるかも知れないし。

結城 どう死のうが俺の勝手だ。

はとこ ……

小夜子 ……そりやそうだ。

千鶴 そりやそうか：

不意におとなしくなる千鶴と小夜子。次のセリフ中に、音も無く現れる知妹と中西なつみ。

はとこ かつてヒトは、死んだ後、天に召されたいと願っていたらしい。純白で穢れない清潔な場所。何不自由ない暮らし…：…本当にそんなモノが欲しいかい？ 永劫に続く平和な時間が。

知妹 きつと退屈すぎて死んじやうよね。

結城 知妹：

なつみ でも死んだらまた天国行きだよ。

知妹 退屈さが連鎖してる。

なつみ せめてDSは充電できないと：

知妹 もしくは尽きることの無いパズルの出題？

なつみ 探偵さんならわからないか？

知妹 やっぱ探偵さんだもんねえ：

なつみ やっぱ命がけだからさ。

はとこ なかなか楽には死なせてくれない。

結城 何がしたい？

小夜子 まあまあ。

千鶴 どうせ夢だと判っているし。

何処からか、ワインを注いだグラスを2つ取り出し、結城の前のテーブルに運ぶはとこ。

小夜子 余命半年を宣告された船乗りは、やはり最後の航海に出た。

千鶴 余命半年を宣告された作家は、やはり最後の取材旅行に出た。

なつみ さてお前は どうする？

知妹 余命半年を既に越えて。

はとこ 2つのグラス。2つの死。どうぞお先に。

流されるままに二者択一に迷う結城。

結城 なかなか楽には死なせてくれない。

なつみ 生きてる知妹と死んじやった亮太。

小夜子 医者ふりした死神のささやき。

千鶴 もしくは依頼人が裁く探偵の人生。

一つを選び、飲む結城。やがて急激な眠気。テーブルに伏せる。チリーンを鳴らし一足先に去るはとこ。静かに登場する和蔵。

千鶴 運の尽きとはよく言ったもんだね。  
小夜子 眠っているのか、こと切れたか…  
和蔵 もう、そんなところでいいだろう。

ダツシユで去るなつみと知妹。後ずさる小夜子と千鶴。

千鶴 とんだ邪魔が入ったね。  
小夜子 持つべきものはワトソン氏。  
千鶴 今日のトコロは大目に見てやるか…

踵を返し去る2つの影。暗転。暗いままの舞台。やがて明かりが戻ると深夜の「わくら」。テーブルにうつぶせて寝ている結城に和蔵が声を掛けているの図。

和蔵 ……おーい。  
結城 ん？…ああ、これはこれは…いてて…  
和蔵 また勝手に飲んで…顔色真っ青だぜ？  
結城 あれ？…ああ、なんだ夢か…  
和蔵 どうやらそのようで。  
結城 ……ま、判っちゃいたんだけどね。  
和蔵 何だ、そりゃ。あ、じゃあ、ちよつといい？  
結城 うん。頼むよ。  
和蔵 えっと…今日は？  
結城 ……9月の11日かな？  
和蔵 俺は？  
結城 和蔵桂五、43歳、独身。特技・爆睡。  
和蔵 じゃあお前。  
結城 えっと…あれ？  
和蔵 おい…  
結城 ジョークジョーク。結城又三郎、出来損ないの名探偵。  
和蔵 うん。じゃあ…依頼人。  
結城 通称・赤川はとこ。こっちは会ったばかりだ…  
和蔵 なるほど。じゃあ最後、依頼を受けてどれだけ経った？

結城 ……あ、そっかあ、もう丸2ヶ月かあ…  
和蔵 ……大丈夫そうだね。  
結城 そうでもないよ。もう少しで持って行かれるトコロだった…  
和蔵 パチスロ？  
結城 や、魂。  
和蔵 はい？  
結城 あれ？ お前こそ、爆睡自慢な時間帯だろ？  
和蔵 うん…たつた今、メールで一報入ってね。星野警部から。  
結城 へえ。  
和蔵 ま、電話でない分、気を遣ったんだろうけど…聞きたい？  
結城 ま、一応。  
和蔵 知妹のお袋さんが亡くなったって。獄中で自ら…  
結城 うそ…

ストーンと暗転。ブリッジの楽曲がカットイン。

#### 【SCENE/4】

シエスタ直前の「わくら」店内。鼻歌まじりにテーブルの後片付けや、拭き掃除をしている朋美。傍らのカウンターで知妹。メールで何やら検索をしている。

朋美 さてと…（エプロンを外しつつ）いくら何でももう来ないな。  
知妹 ……

一旦カウンターの奥に入る朋美。店内BGMがプツリと消える。バッグを持って登場する朋美。

朋美 あ、音楽、消して良い？ もう消しちゃったけど。  
知妹 別にいいけど…10分もあるじゃん。  
朋美 えっ？  
知妹 ラストオーダーまで。  
朋美 ああ、いいのいいの。経験的なデッドラインは超えてる。  
知妹 あんたねえ…  
朋美 滅多に無いんだからね。閉店間際にマスターが銀行行って、居候の

アンタがココにいるなんて。

知妹 え、フケル気？

朋美 ま、ラストオーダーまではいるけど…後、8分。

知妹 や、オレは電波が…

朋美 すぐ戻るから、和蔵さんが。

知妹 ちえ…あれ、夜は？

朋美 や、今日はコレで上がり。

知妹 最近入れてないじゃん、夜。

朋美 うん…何かね、疲れちゃって。

知妹 そんな勤務態度で？

朋美 ていうかさあ…最近、関係者ばかりじゃん。夜。

知妹 ああ。

朋美 私、思考パズルは好きだけど、何？ あの人間関係がグチャグチャしてる中で、議論するのダメみたい。

知妹 ふーん。

朋美 なんか変に現実逃避だし…

知妹 ……なんか判る気がする。

朋美 そう？

知妹 そうじゃなくて…和蔵さんがアンタを止めさせない理由。

朋美 ……ふーん…

知妹に近づき、頭を両手でぐりぐりする朋美。

知妹 (振り払い) やめろよ。

朋美 (動じず微笑んで) 今度デートしよっか？

知妹 嫌です。

朋美 うわあ…端的く。じゃあ、お留守番よろしく。

店の出口へ向かう朋美が足を止めた。

朋美 どうせ人は死ぬからな。

知妹 えっ？

朋美 私の母親は5歳のとき男と出てった。3年前に死んだらしい。

知妹 あんた…

朋美 ま、ケセラセラってこっちゃ。

去る朋美。カウンターへ水を飲みに向かう知妹。その動作中にテーブルに残した携帯のバイブが震える。「非通知設定」の表示に少し迷って、ボタンを押す知妹。

知妹 ……はい…ああ、オレ…あ、そうか携帯嫌いだっけ…ああ、うん。

知らないよ。銀行だって。んで、例のウエイトレスが…えっ？…(出口を見て) ああ、そうだけど…え、近くにいるの？ 公衆電話？ ああ、うん…うん、主治医の。知ってるけど…うん。え、ココに？ これからってこれから？…うん…え…ブラフって…ああ、うん。…うん…うん…判った、やってみる。うん…じゃあ…

電話を切る知妹。少し考えカウンター奥に入る。コーヒーのサーバーと2つのカップを持って戻る知妹。入り口からDr・千鶴。

千鶴 お、じゃ、ましますう…

知妹 どうぞ。

千鶴 ……あら、知妹君。

知妹 お久しぶりです。

千鶴 うん…あれ？ 一人？

知妹 ええ、生憎。

千鶴 結城さんも？

知妹 昨晚から帰ってないですね。

千鶴 そう……てつきりココ2時まで開いてると思ってた。

知妹 ……ブラックで良かったですよ？

千鶴 ああ、うん…

知妹 (テーブルに置きながら) ランチの残りだけ…

千鶴 ありがとう…扉、クローズになつたけど、ロック空いてたから…

知妹 いつもそうです。

千鶴 え、物騒じゃない？

知妹 それが意外に…物取りが目的のヤツにしてみれば、クローズで鍵が開



いてるほうが、逆に警戒するから。

千鶴 ああ、そうか…なるほどね。でも何か手品みたいね。

知妹 えっ？

千鶴 まるで私の訪問を予知してたみたい。

知妹 まさか…足音がしたんで。関係者の誰かだろうって。

千鶴 そう…でも元氣そうね。

知妹 別に…

千鶴 今までで一番話をしてる気がするわ。

知妹 ……

千鶴 あ、そうか。確かもうすぐだったわよねえ、出所。お母さん。

知妹 え…ああ、

千鶴 ちゃんとお迎えに行つてあげてね。

知妹 ……結城が行くんじやない？

千鶴 えっ？…や、だつて…

知妹 アイツも死ぬんでしょ？

千鶴 えっ…

知妹 ……

千鶴 ……誰の話？ だいたい…

知妹 聞いたんだ、本人から。だから隠さなくて大丈夫。

千鶴 ……そう。いつ？

知妹 2日前かな。結構飲んで…

千鶴 そう…止めるって言うてんだけど…そっかあ、私出張だったから…

知妹 ……

千鶴 見る？

知妹 え？

手提げ鞆から、頭部の断面図を取り出す千鶴。受け取る知妹。

千鶴 ほら、これ。

知妹 ……うん。

千鶴 血瘤の一種なんだけど、この瘤が数年で確実に大きくなって。

知妹 悪性なの？

千鶴 ううん、多分そうじゃない。

知妹 多分って…

千鶴 悪性ならとくに命を奪ってるはず。でも、細胞を解析したくても、

採取が出来ない。瘤の内圧が高くて、少しでも傷つけたら、爆発しかねな

いのね。

知妹 そうなんだ…

千鶴 問題は物理的な大きさなの、この瘤自体じゃなくて。瘤が脳のほかの

部分を圧迫する。

知妹 ……

千鶴 最初に小さな瘤が見つかったのが8年前。結城の推理が一番冴えてい

た頃ね。

知妹 え、じゃあ…

千鶴 天才的なひらめき。知性と感性がダイレクトに繋がったような発想の

早さ。でも残念ながら、瘤は次第に他の部分も圧迫していった。

知妹 じゃあ…もしや記憶も？

千鶴 うん。海馬、視床下部、まだまだ医学が解明できてない部分だからね。

そして最後に機能障害の領域に至る。まずは頻繁な嘔吐、味覚の変化…あ

くまで希望的観測で、新年早々に想定したけど……飲酒が死を早めるかも

知れない。早めないのかも知れない。

知妹 ……そっかあ…

千鶴 でもね。本人にしてみれば、体の死よりも、意識の死がきつと先に訪

れる。自分を、そして周りの人たちをいつまで認識してられるか……ま

あ、この辺も本人から聞いてると思うけど……あれ？

知妹 ……

千鶴 ……あんた、もしかして…

知妹 ……

カノコ ちわっく。

店の入り口から入るカノコ。

カノコ あれ？ ああ、先生。お久しぶりです。

ダッシュで店の外へ走り去る知妹。

千鶴 ああ、ちよつと……

カノコ あ、まずかつたですか？ 私。

千鶴 ああ、いえいえ……(さりげなく写真を封筒に戻す)

カノコ 結城先生との間に何か？

千鶴 あ、や、そうじゃないんだけどね……ちよつと私がいろいろしつこく聞

いちやつたから……

カノコ ああ……判ります判ります。

千鶴 え？ 判ります？

カノコ 最近のガキは、私達の常識当てはまらないから……

千鶴 え？……ああ……あれ？ でも確かお宅は……

カノコ ええ、ウチはまだ2歳ですけど……近所のママさん集会で。

千鶴 あああ。

カノコ 良かれ思つて大声上げても「僕を否定した」とか言われるらしくて。

千鶴 ああ……でも「大声」は良くないわね。

カノコ えっ？

千鶴 それを「武器だ」と認識しますから、子供は。

カノコ えつと？

千鶴 大声は武器になる。それを母親から学んだ子供は、早速、学校で友達

に使うんです。相手を制圧する手段としてね。

カノコ ああ、なるほど……

千鶴 ……あれ？ 何の話でしたっけ？

カノコ えつと、結城先生は？

千鶴 それが居ないらしいのよ。私も彼に会うために来たのに……

カノコ そっかあ……

肩を落とし、カウンターで水を注ぐカノコ。

千鶴 どうかした？

カノコ ……ああ、ええ……なんかこの所、上手く避けられているようで……

千鶴 ああ、結城から？

カノコ ええ。まあ、久々の事件で、復活だあってはしゃぎ過ぎてるのも自

覚はしてるんですが……あ、えつと、先生は今回の……

千鶴 ええ、聞いてますよ、粗方はね。

カノコ もちろん最初は皆で集まって、結城さんから、事件の説明や指示を

受けたんですけど、その後、結局しつかり話してなくて……

千鶴 そう。

カノコ もちろんメールとかでデータは共有してるんですけど。

千鶴 ふーん、ま、でも、そんな時代なのかもね。

カノコ ああ、ええ……

千鶴 それに、そんなトコあつたじゃない、昔から。何？ 皆で調べたり考

えさせたりしておいて、最後の詰めは明かさず自分の手柄、みたいなさ。

カノコ ああ、はい。……て言うか、そうか千鶴先生、昔はチームの一員だ

つたんですもんね。

千鶴 ええつ、違うわよ。ココに時々出入りしてただけで……ああ、もち

ろんまだ和蔵さんの店じゃないけどね。

カノコ 第一期の黄金時代ですよ。私もキムも多分学生だ。

千鶴 変なのばっかいたわね、特にあの頃は。皆が粋がつて……トリックの尚

吉、プロファイアの翠子……

カノコ いわゆる3羽ガラスですね。星野さんから色々聞きました。

千鶴 ま、時代も違うしね……こんなに動機無き殺人がオンパレードになるう

とは。誰も予測して無かつたよ。

カノコ ああ、ええ。

千鶴 星野君なんかまだ駆け出しでさあ、大体彼は、ウチの父が検視官やつ

てた付き合いでココに顔出すようになったのね。

カノコ へえ……

千鶴 まあでも、不幸な偶然が重なって、あつてなく初代・結城組は解散。

カノコ 確か亡くなられたんですよね、メンバーが……

千鶴 うん……それも結果的にはイージミスが重なっての事だったから……そ

の分、後味が悪かつたわね。

カノコ へえ……

千鶴 ……ゴメンね、湿っぽい昔話で。

カノコ いえ……えつと、結城先生が知妹を引き取つたのも、その辺り？

千鶴 ああ、あれはもう少し後かな？ アンタ達二代目の少し前、結城が一

人で活動再開した矢先の……ま、結城君が解決した所為で、知妹は天涯孤

独になつたわけだし……

カノコ ええ……あ、そうか。

千鶴 え、何？

カノコ すいません私ボケてて…知妹のお母さんのことですね？

千鶴 えっと？

カノコ だからさっき、先生と知妹が揉めてたの。

千鶴 ん？ 判んない。

カノコ だから獄中で亡くなられて…

千鶴 …うそ、いつ？

カノコ 3日前の…じゃあご存じなかったんですか？

千鶴 …だって、えっ？ じゃあ、晴れて刑期空けの目前に…

カノコ ええ。遺書とかは無かったんですが、明らかに…少し前から精神的に不安定だったらしいんですが…

千鶴 それって知妹君は…

カノコ ええ、多分、結城先生が…流石に裁判所絡みなんで、検視や記者

発表も慎重で、実際の葬儀とか今揉めてるらしいんですが…

千鶴 …それ所じゃないわ…

カノコ えっ？

千鶴 ゴメン、ちよつと出ます。

カノコ 先生？

千鶴 ああ、それと…もし結城を見かけたら、明日の午後1時。絶対ココに

居るようになって。もちろん一応、メールも入れておくけど。

カノコ 明日の1時ですね？ ああ、そうか定休日。

千鶴 じゃあ、よろしく。

カノコ ああ、はい…

足早に知妹を追う千鶴。残されたカノコ、手持ちぶさた。

カノコ じゃあ私はつと…ん？…留守番か？

ストンと暗転。

## 【SCENE/5】

定休日の「わくら」。椅子がテーブルの上に置かれ、キムがモップがけをしている。やがて入店の星野。

星野 あれ？

キム うつす。

星野 転職？

キム 違いますよ。定休日にまで借りてるから、少しぐらいって。

星野 ほう、感心な心がけだ…結城は？

キム 調査旅行じゃないかって、マスターは。

星野 何だ、じゃあ真面目に旅情ミステリーの追いかけてっこしてるわけ？

アイツが？

キム や、よくは知らないんだけど…

星野 ふーん…意識的に避けてやがるな。

キム えっと、僕たちをですか？

星野 てことは解決が近いんだけどね。

キム へえ、そうなんだ。

星野 ンで？ 依頼人の足取りは？

キム ああ、毎週火曜の振込み（ポケットからPDA）…

星野 掛川から三浜、東北に回って能代だっけ？

キム ええ、その後が北海道に飛んで「ほしみ支店」、その後が十和田。一旦

上野に戻り、先週は下呂。岐阜の温泉郷ですね。

星野 よおし、判った。

キム はい？

星野 次は倉敷だな。

キム え、何ですか？

星野 や、そりゃあ…西に向かって、観光地だし…

キム せいぜい捜査員を派遣してくださいよ。

星野 …犯人はお前だ！

キム だから何ですか？

星野 これが動かぬ証拠ね。

内ポケットから紙切れを取り出す星野。

キム うわぁ切り抜き文字ですかぁ…レトロだなあ。

星野 まあ、読んでみたまえ。

キム 「諸々の条件から鑑み、内部犯行を推論する」。

星野 犯人はお前だ！

キム や、だから：

星野 (取り返し) 引っかかったなキムジェヨン。これでこの証拠品にはお

前の指紋がべつとりだぜ。

キム そんなあ：大体、この告発の文章に指紋が付いていても、それが犯人

って話じゃないでしょ？

星野 :あ、そうか。

キム 何なんです？ それ。

星野 いわゆる匿名のたれ込みだな。ココの郵便受けに入ってたらしい。俺

の名前だけを書いた封筒に入れてね。

キム へえ……(微笑んで)でも何か間抜けですね。

星野 え、何で？

キム だって、この店に投函すること自体、内部に詳しいヤツの仕業でし

よ？

星野 ま、そうだなあ。

キム それこそ「内部犯行」そのものだし。

星野 ああ：あああ、確かに。

キム 意外に結城さんの悪戯だったりして。

星野 まさか……あれ？ カノコは？

キム お子さんが急な熱出したって。

星野 そう。……あいつも意地っ張りだからな。

キム えつと？

星野 平凡な家庭が性に合わない訳じゃないのに、後ろ髪には滅法弱いタイ

プ。

キム ああ、言えてますね。

星野 世の半分がそんな女なんだって。

キム へえ……やっぱあったんですかねえ、肉体関係。

星野 そこへ行く？ 結城と、でしょ？

キム ええ。行かない？

星野 まだまだ青いね、君は。

キム そうですか？

星野 そういふもんじゃないみたいよ。女心は。えつと、関係の有無は問題にならない、ってことですよねえ？

星野 ま、オレにも判らんけどね。

キム はあ：

勝手にカウンターを物色する星野。掃除の仕上げに戻るキム。

星野 :なかなか手際がいいじゃん。社長さんの割には。

キム 警備コンサルタントって言っても基本雑用ですからね。セキュリティ

ー工事と清掃がセットの商品もあつたりするから。

星野 ふーん。でもじゃあVIPの警護や素行調査なんかもあるだろ。

キム ま、時には。

星野 ちゃんと食いつぶせてるじゃん。

キム どうかな……莫大なマニュアル、個人情報に気を配りながらの調査：

……ただのサービスマンです。

星野 ふーん。

キム 僕ね、今でも結城さんの指示なら、掛け値なしで昔に戻るんですよ。

星野 だって、あの人は初めての人なんです。

キム 初めて、って？

星野 日本国籍のない僕の事、初めて当たり前前に扱ってくれた人なんです。

軽蔑でも同情でもなく実にフラットに：ちゃんと叱ってくれて、認めてく

れた：どうしようもない劣等感や欠点まで丸ごと……

星野 キム：

キム すいません湿っぽくって……

星野 確かに。それにしても……

キム なんです？

星野 浪花節だねえ、俺達は。こりやあ時代に取り残されるはずだ。

キム (微笑んで) 確かに。

星野 じゃあ、ま、行くか？

キム えつ？

星野 事件は結城に任せてさ。何かそれでいい気になってきた。

キム ああ：そうですね。

星野 ほら。

キム えつ？

星野 そこで感慨にふけるから、次の行動が遅れるんだ、お前は。

キム はい？  
星野 置いてくぞ。  
キム ああ…はいはい。…：…これかあ…：

先に去る星野。慌てて追うキム。暫し無人の舞台。やがてカウンタ―から和蔵、事務所扉から結城がそろって顔を出す。

結城 …：上手く行くもんだねえ…

和蔵 うん、後7分。

結城 Dr・千鶴は時間厳守だから…

和蔵 おまけにあの2人を前に、出来る話でもないだろうし…

結城 全く不用意なんだから。

和蔵 え、オレ？

結城 オレが調査旅行とか言うから出れなくなったんだろ。

和蔵 だって、居留守って言うから…：

結城 もうちよつと居座つたらどうするつもりだったんだよ。

和蔵 ふふん。

結城 だから不気味だって、それ。

和蔵 これこれ。

傍らからバルサンを取り出す和蔵。

結城 なるほど…：定休日だしなあ。

和蔵 コレ…：一度やってみたかったんだよね。

結城 ああ、そういう感じ。

和蔵 え、何が？

結城 うん。そういうのが意外と多いんだよね。そういうえば今までやったこと無かったなあつてのがね。近づく死の実感なんて、そんなモンだよ。

和蔵 結城…

結城 ほら先月免許更新に行ったじゃん。若くて可愛い制服ポリスにさ「ゴ―ルドですの5年間、大事に使ってくださいね」なんて言われちゃうとね。そうもいかないんだよなあつてね。

和蔵 …：サラリと言われる身にもなれ。

結城 え…：ああ、すまん。

和蔵 や、謝ってもらおう話じゃないけど…

結城 うん…：やっぱ甘えてるよね、お前に。

和蔵 昔の面々にも意識的に会ってないんだろ？

結城 ああ、カノコ？

和蔵 やっぱ怖いのか？ 5年前の面子だと。

結城 結構ボロが出るんだよね。この前も星野から昔話持ちかけられて全然判らなかつた。

和蔵 ま、確かに、オレなら歴史的にまだまだ浅いからなあ…

結城 や、そういう意味じゃないけど…：…：そもそも前の奴らに声かけた時点で俺のミステイクだね。何か挨拶代わりに、みたいな情が出ちゃつて。

和蔵 ふーん…：

結城 ねえ、さつきアイツらが言つてた移動する振込場所だけどさあ…

和蔵 ああ、うん。

結城 「上之保」つてのは地名かなあ？

和蔵 かみのほ？…：ああ、なんか中部地区にあった気が…：や、待てよ、お前から聞いた気がするなあ、確かなんかの昔話か食通自慢かなんかで。

結城 へえ…：…：事件のファイルとか一切残してないからなあ…：

和蔵 それこそ記録作家のワトソンがいらないからでしょ。

結城 まあまあ。

和蔵 知妹は？

結城 ああ、今は薬で眠らせてある。

結城 デザートにチョコチョコとブランドーをね。まだまだガキだな。すぐ効

くんだから。

和蔵 昔からやつてるのかよ。

結城 普通だつて。親の自由時間も大切なんだから。

和蔵 ふーん…：…：親の自由じゃなくて…：…：明け方だったんだろ？

結城 ああ、うん。元々素晴らしく屈折してるからな。まずは、こっそり泣

和蔵 く場所を探すのにヘトヘトになるタイプだ。

和蔵 にしても、出所直前の自殺じゃあな…：

結城 自分に再会するプレッシャーだったんじゃないかって…

和蔵 え、知妹が？

結城 うん……まんざら悪い推理じゃない。

和蔵 お前……

結城 アイツは大丈夫だよ。自棄で自分を見失うような子じゃない。

和蔵 それにしても……

結城 まあ、何にしろ、Dr・千鶴が来る前に戻って助かったよ。

和蔵 確かに。彼女も方々探したらしいし。

結城 にしても……(腕時計を見て)何だろう？ 嫌だなあ……

和蔵 どうせ全然行つてなかったんだろ？ 病院。

結城 ま、そうだけ……

和蔵 午前中、吐いてたろ？

結城 うん……飲み過ぎだな。

和蔵 本当に？

小夜子 こんにちは……

和蔵&結城 えっ？……

入り口に立っている宇海小夜子。

結城 ……お前……

小夜子 (和蔵に) どうも……

和蔵 ……いらつしやい……

結城 ……

小夜子 ……(結城に向き直り) どうかしたの？

和蔵 ……あ、実は彼、昨日……

結城 いいんだマスター。……久しぶりだね、小夜子。

小夜子 ……ええ、本当に。

結城 なるほど、Dr笹本に聞いて来たんだね。

和蔵 ああ。

小夜子 ごめんなさい試すような事して……。千鶴先生から聞いて、私からお

願いの。

結城 それは話が早い。とりあえず第一関門クリアだな。

小夜子 あなた……

結城 いや、すまん。ああ、こちら……

手で制し厨房へ去る和蔵。横切る際に会釈。小夜子も応える。

小夜子 静かなのね……もっと大勢でワイワイやってるのかと……

結城 最近ダメなんだ、大勢の場所は、何か面倒で……

小夜子 ……ええ……信じられない。

結城 ……元氣そうじゃない。

小夜子 うん。……ああ、誤解のないように言っておくけど、たまたま別の診

察で行ったのね、総合病院には。廊下で千鶴先生に呼びとめられて、いろ

いろ話を聞いて……

結城 そう。(微笑んで)君が会いたくなって来てくれたとしても、それはそ

れで「嬉しい誤解」だったけど。

小夜子 ああ、そうか……

結城 や、悪い、軽いジョークのつもりで……

小夜子 (微笑んで)ホントそうね。成長ないな、私も。

結城 いや、おアイコだ。

小夜子 ……でも正直嬉しかったわ。名前まで覚えていてくれて。

結城 会ったばかりだから。

小夜子 えっ？

結城 夢だね。よく出てきてくれるから。

小夜子 そうなんだ。

結城 つい最近も……不思議と夢の中に登場した人物は、そのまま比較的新

しい記憶と認識してくれるらしい……

小夜子 ……ええ……日常生活に支障はないの？

結城 基本的に時系列……っていうか、古いモノから着実に失う。でも古い何

かが消えると、それに関わる新しい何かも一緒に消えることもある。

小夜子 冷静なのね、自分の事じゃないみたい。

結城 そうばかりでもないんだけどね……あれ、でもそうか……

小夜子 何？

結城 君とこうして話す事自体、不可欠なのかも……解けないパズルの、控

えめなワンピース。

小夜子 そう？ (服装を気にする)

結城 ……服の種類じゃなくて……

小夜子 えっ？ ああ。

**結城** (微笑んで) 相変わらずだな君も。基本鋭いくせに時々天然が顔を出す。ま、主に自分への関心からだけどね。  
**小夜子** そうかなあ、それは認められない。自覚ないし。  
**結城** 自覚がないから天然なんじゃん。  
**小夜子** あ、そうか。

微笑みあう2人、暫しの間。

**結城** 何か飲む？ コーヒーでも。

**小夜子** ああ、いえ。まだアレルギー持ちだから。

**結城** …ああ、そうか。そうだったね。

**小夜子** 今のは症状の所為？ それとも時間の所為？

**結城** さあ、どっちだろう。

**小夜子** じゃあ、ちよつといい？

**結城** どうぞどうぞ。

イスに座り専用の飲み物を出して飲む小夜子。カウンターで自分の水を注ぐ結城。

**小夜子** じゃあ…亮太は？

**結城** えっ？

**小夜子** 出てくる？ アナタの夢に。

**結城** …繰り返し見るシーンが一つあってね、6、7歳かな？ オレが調査明けでソファで寝てると、誰かが俺のポケットを弄るのよ。ズボンやら上着やらさ。起こさないよう用心しながらさ。あ、亮太だ、亮太がお土産を探してるんだ、ってね。最高に幸せな気分になる。子供なりに、眠ってる俺へ気を遣ってるのが嬉しくて…でも、残念ながらいつもそこで目が覚める、だから…亮太の顔が…思い出せない…

**小夜子** そう…私と逆で、アナタは全て捨てたもんね…亮太の思い出…

**結城** すまない…

**小夜子** 大変だったんだから、こつちも。

**結城** えっ？

**小夜子** 深夜になると判ってるのに、9時には戻るよう努力する、何て言う

からさ、亮太、ホントは眠いくせに頑張っちゃって。

**結城** そう…そのくせ俺は外に出るととたんに色々忘れちゃう…何だ、今とあんまり変わらないか？

**小夜子** 何だかあれね、やっぱ夢に随分救われているみたい。

**結城** そうかもな。基本的に楽しい夢が多いし…あ、でも飲みすぎるとキツイの見るけどね。

**小夜子** 極力アルコールは控えるようにって、千鶴さんが。

**結城** はいはい。

**小夜子** え、じゃあ、もしかして、私はキツイ方の常連？

**結城** …まさか…でも不思議な事に、亮太に比べ、君はいつもリアルな世界に絡んでくる。ほら、それがさっき言ったパズルのワンピース。

**小夜子** よく判らないけど…え、じゃあ今でも何か事件を？

**結城** うん。結城又三郎、最期の事件。少し判りかけてきた気がする。

**小夜子** (諦めたように微笑んで) ふーん…で、私に出来ることは？

**結城** うん…千鶴先生のことだから、今の同居人のことも話してくれてるのかな？

**小夜子** ええ、確か知妹君とか言う…

**結城** うん。…引き取ってくれとは言わない…基本的にアイツが決める話だし…かなりの意地っ張りだけど、その分、今どき珍しく純粋な奴で…

**小夜子** いいわ、出来る範囲でサポートする。

**結城** ホントに？ それは助かる。

**小夜子** 幸い主人も無類の子供好きだし、何より国宝級に大らかだから。誰かと違って…

**結城** それはそれは。

**小夜子** ま、その分、時々退屈だけど…

**結城** …幸せそうで何よりだ。

**小夜子** …(頑張って) うん。

暫しの間。腕時計を確認する小夜子。

**結城** 何年だっけ？ 亮太が死んで…

**小夜子** 13年…昨年ね、母達が身内で法要を…

**結城** そっか…生きてりや知妹より年上か。

小夜子 最後に一つだけ……また試すようで恐縮なだけど……

結城 うん。いいよ。

小夜子 私達は何で別れたの？

結城 それは……亮太が死んだから……じゃないのか？

小夜子 ……どうやら時系列だけじゃないようね。

結城 えっ？

小夜子 あなたは忘れたい事から忘れていく……

結城 え……じゃあ、

小夜子 幸せな人ね。そして……やっぱ身勝手な人……

結城 ……すまない。

小夜子 (バッグを探りながら) ごめん、そろそろ行かなきゃ……

結城 うん……

小夜子 これ、ちようどさつきアナタが話してた頃よ。

一枚の写真を渡す小夜子。

結城 亮太……

小夜子 夢で再会できるといいわね。じゃあ(去ろうとする)……

結城 待つて……亮太は何で死んだんだ？

小夜子 ! アナタ……ごめん、それだけは言いたくない。私の口からは。

結城 小夜子……

小夜子 でも……やっぱ来てよかった。会えてよかったわ、アナタがアナタでいる間に……

踵を返して去る小夜子。テーブルに残り息子の写真を見続ける結城。ふと一つの発想が沸き上がり暗転。

### 【SCENE 6】絞った明かりが入ると深夜の「わくら」。

入り口から一つの影。警戒しながらも無駄の無い動きでCDラックに近づく。棚から素早く一枚の紙を取り出すと小型の懐中電灯で素早く見る。慌てて消し、走り去ろうとするその瞬間、店内の明かりが点灯。それは身軽な服装のなつみだった。暫し誰も現れない。やがてもう一度紙に目を落とし、静かに微笑み、警戒を解

いて椅子に腰掛けるなつみ。

なつみ 参りました。降参しますから。

事務所から結城、厨房から和蔵が登場。

結城 うつしやあ。いただき。

和蔵 ちえっ……(500円玉を投げる)

なつみ 賭けですかあ？ それもたつた500円……

結城 まあまあ。

和蔵 にしても、まさかなつみちゃんとはなあ……何か飲む？

なつみ ……いいんですか？

和蔵 ま、深夜の特別サービスね。

なつみ じゃあ……ロシアンティーで。

結城 ……

和蔵 了解。

厨房に去る和蔵。

結城 本名・中西なつみ、いや、これも偽名かな？……いろいろ知妹に吹き込んでくれたようで……

なつみ いつから判つてたんです？

結城 普通に知妹を見てれば判るよ、誰かいるつてね。判りやすいんだから、

あいつ。後はまあ、消去法ですね。

なつみ (先ほどの紙を手にして) じゃあ、これも……違うか、もう一つ前の待ち合わせの指示も結城さんが？

結城 懐かしかったよ、探偵ゴッコへのお付き合ひ。でもまだまだだね。「どうやらバレたらしい。すぐ逃げて」こんな文章をゆつくり切り抜き文字で書くはずがない。

なつみ ええ。明かりがついて、やっとなつて察しました。

結城 依頼人は知妹だね？ オレの病状を知らべて欲しいって。

なつみ はい。でも、アナタの事をブログで知って、こっそり彼に近づいたのは私です。



**結城** へえ…昔もいた気がするなあ、そんな輩が…

**なつみ** 通称プロファイルの翠子さんですよ？ 初代3羽ガラスの。

**結城** 君、そこまで…

**なつみ** 私、本気なんです。確かに元々は推理マニアが講じたアマチュアですけれど、こんな時代だからこそ、個人や民間の探偵が、見直されるべきだと思います。

**結城** それこそ古風なモノへの憧れだけだよ。さっさと小説家なんかには鞍替えすべきだ。

**なつみ** 今回、一切携帯を使わなかったのは、純粹に先生への敬意です。ちゃんと時代には即していきますから。

**結城** アンタねえ…

**和蔵** まあまあ…はい、どうぞ。ほら、お前も。

**結城** ちえつ。

カウンターにトレイを置く和蔵。なつみのカップも運ぶ結城。

**結城** どうぞ。

**なつみ** ありがとうございます。(和蔵に) いただきます。

**和蔵** どうぞどうぞ。

**結城** (一口飲んで) あれ？ これ…

**和蔵** お、判る？ 仕入れたばかりのブルマンね。うちの中では最高級。

**結城** へえ。

暫しの間。それぞれに味わう2人。

**結城** それで…内部犯行説の告発は一種の売り込み？ 警察への。

**なつみ** ええ、まあ…それは何で？

**結城** それは…ほら、あの…

**和蔵** ……

**なつみ** 何です？

**結城** うん…警部から見せてもらったよ、封筒ごと。警部補の「補」が抜けたのを知らないのは知妹と君だけだ。  
**なつみ** そっかあ…

**結城** でも残念ながら、あの紙に書かれた、あぶり出しの文章はまだ読んでないみたいだね。

**なつみ** うそ、そうなんですか？ 古典的な方法なのに。

**和蔵** 古典的過ぎたりして。

**なつみ** だって、紙もわざと少し汚して…なんで気付かないかなあ…  
**結城** 大人を舐めちやいけない！

**なつみ** …えっ？  
**和蔵** 結城…

**結城** 今君は、僕たちがきつと不法侵入で訴えはしないだろうと信じてココ

**なつみ** ……確かに…

**結城** そこがどうしようもなくアマチュアなんだよ。その気さえあれば簡単に君の夢を打ち砕ける。

**なつみ** ……

**結城** その甘さ、自分の鋭さへの過信…いずれ君の命取りになる。

**なつみ** ……

やがて残った紅茶を飲み干すなつみ。

**なつみ** 勉強になりました。ご教授ありがとうございます。

**結城** …あ、や…

**なつみ** 今日はこれで失礼します。先生には大きな借りが出来ました。

**結城** あ…返さなくていいからね。

**なつみ** では、また、いずれ。

一礼して去ろうとするなつみ。

**結城** あ、じゃあさあ…

**なつみ** (足を止め) 何でしょう…

**結城** 貸しの返済代わりにね…知妹をよろしく。

**なつみ** ああ、はい。ちゃんと友達ですから。

**結城** それと、今の件と僕に関する情報だけ…そうだな…1月だけ伏せておいて。

なつみ はあ……（部屋の脇の結城の旅荷物を見て）判りました。約束します。命にかけて。

結城 安っぽい命だ。

なつみ ま、若いから。

結城 なるほど。

踵を返し、去るなつみ。ゆつくりとコーヒーを味わう結城。

和蔵 警部の名前。

結城 ん？

和蔵 出なかつたら、さつき。

結城 ああ、そう……何だっけ？

和蔵 星野。

結城 ああ、そうだ、星野亮平。えっと、それに香山カノコ、笹本千鶴にキ

ム……あれ、何だっけ？

和蔵 だから、キム……あれ？

結城 ほおら度忘れ。

和蔵 えっと、デジョンじゃないし、ポッシブルは違うなあ……あれ？

結城 落ち込む顔が思い浮かぶな。

和蔵 ああ、うん。……ま、でも同じようなモンだったりして。

結城 えっ？

和蔵 オレたちだって、すぐに消える。記憶も体も、誰かさんの思い出も。

結城 （立ち上がり）うん。ま、皆まとめて適当に言っておいてよ。

傍らの大き目の荷物に向かい、コートと帽子を被る結城。

和蔵 ……出て行くって事は、解決したって事だよな？

結城 うん。一昨日の明け方かな。全てが霧のようにね。

和蔵 そう。

結城 ずっと誰か、もう一人いると思っていた。

和蔵 「赤川はとこ」の陰に、だね？

結城 うん。つまり女依頼人に、さらに依頼した人物……

和蔵 それが結城又三郎。

結城 うん。やっぱ気付いてた？

和蔵 そりゃ、付き合い深いから。深いけど長くはないからね。

結城 なるほど。

和蔵 なあんでね。ただの消去法、アテ推量。実は良く判ってない。

結城 じゃあ、まあ、その辺は最後の集いで。

和蔵 3日後だったっけ。

結城 うん。

和蔵 楽しみにしておくよ。

結城 ……オレの我儘と鈍さで、皆まで巻き添えにしちまった。これ以上コト

を荒げたくなくてね。

和蔵 ま、いいんじゃないの。それこそお前らしくて。

結城 ねえ、一つだけ確認したいんだけど……

和蔵 何？

結城 オレはこの事件、最初からアンタにも協力を要請してたのかな？ 記

憶を亡くす前に。

和蔵 ……いや……何も聞いてないよ。全部お前が自分で解決したんだ。

結城 ……そう。

和蔵 和蔵の「わ」はワトソンの「わ」

結城 はい？

和蔵 忘れるなよ、俺を。

結城 で、誰なんだ？ そのワトソンってのは？

微笑み合う2人。

結城 ああ、それと……

和蔵 何？

結城 美味しかったよ。ブルマン。長く記憶に残るだろう。

和蔵 うん。

結城 ……じゃあ切りが無いから。

和蔵 まあまあ、もう一仕事させるよ。

事務所の扉に向かい、勢い良く開ける和蔵。扉の奥に知妹。

結城 ……本格的にヤキが回ったな、全然気付かなかった。  
知妹 ……（チラリ和蔵を見る）  
和蔵 俺が場を譲ると思うなよ。今夜はココで見届ける。  
結城 だって。ま、オーナーだしね。  
知妹 ……オレ……  
結城 ……うん。  
知妹 今夜のデザートは食べなかつたから。  
結城 え。ああ……  
知妹 何度も同じ手が使えると思うなよ。  
結城 ああ。うん。  
知妹 それと……  
結城 うん。  
知妹 ホントはあのスパゲティー好きじゃない。  
結城 え、そうだったのか？  
知妹 こっぴりしすぎて飽きが来る。誰かに食べさせるなら、雲丹は半分ぐ  
結城 らいの方がいいと思う。  
知妹 そうか……さつさと言ってくれば……  
結城 ……  
知妹 まだあるのか？  
結城 ……  
和蔵 やっぱ、外そうか？……  
知妹 おれ。  
結城 うん。  
知妹 おれ……アンタがああの夜、お袋を捕まえてくれなかつたら、多分、殺  
結城 してたと思う……  
結城 だってお前、まだ中学入る前の……  
知妹 でも殺ってたと思う。  
結城 ……そうか。  
知妹 感謝してる。  
結城 それは知ってる。  
知妹 それに……  
結城 うん。  
知妹 ……いないと困る。

結城 奇遇だな、それは俺も同じだ。  
知妹 ……もう会えないの？  
結城 ……お前は特別だ。いつでも会えるよ。それに……  
知妹 ……（視線を上げる）  
結城 最近よく息子の夢を見る。その時の顔は、いつもお前だ。  
知妹 ……そう……  
結城 うん。  
知妹 そう。じゃあ……  
結城 それだけ？  
知妹 うん。……もう寝る。

事務所に戻る知妹。長い間。やがて荷物を床に置く結城。  
結城 ……やっぱ明日にするわ。  
和蔵 そうだね。

事務所に消える結城。しばし佇む和蔵が厨房に向かつて暗転。

【SCENE / 7】 3日後、夕刻の「わくら」。テーブルに  
に星野。熊のように歩き回ってるカノコ。離れた椅子に朋美。

星野 ……つたかどうか？ 今度は結城本人が失踪したのは……何か  
朋美 ……聞いてないの？  
星野 ……  
朋美 ……  
星野 ……  
朋美 ……  
星野 ……  
朋美 ……  
星野 ……  
朋美 ……  
カノコ ……  
朋美 ……

カノコ ああ、いえいえ、ちょっと懐かしいジョークを思い出しちゃって。  
朋美 そうですか……ま、思い出すのは勝手ですが、そんな事のために、熊  
のように歩き回らないで下さいね。気が散りますから。

カノコ ……アンタねえ……

星野 まあまあ。

カノコ ……キムは？

星野 俺に当たるなよ。

カノコ だいたい変でしょ？ 結城先生が行方不明で、じゃあ誰が今日の集  
合を掛けたのよ。一斉メールで。

星野 あれ？ 何だ、お前じゃないの？ さすがに同胞メールのアドレスま  
では確認しなかったけど……

カノコ や、そりや私だって見なかったけどさあ……

朋美 クスッ。

カノコ 何よ。

朋美 ああ、すいません。ただの思い出し笑いで。

カノコ (椅子を持ち上げる)

星野 まあまあ、キムじゃないの？

カノコ 何でよ、なんでアイツごときが……

星野 あ、意外と結城で良かったりして。ほら、この日この時を演出するた  
めの行方不明。

カノコ あ、そうか……

朋美 ああつ！

カノコ 今度は何よ……

朋美 判っちゃいました、私。

星野 え、何？ 結城の居場所？

朋美 や、そうじゃなくて宇宙人の行動目的。

星野 ああ、月例会の？

朋美 ええ、謎の依頼人の置き土産。

カノコ 何よこんな時に。って言うか、アンタ出題者でしょ？

星野 あ、さては答え知らずに出題してたな？

朋美 へへつ。

カノコ お釣りだよね。

朋美 おつ、イエス。

カノコ んで小道具が千円札。

朋美 正解。

カノコ そこまでは行けてるんだけどなあ……

朋美 334円の買い物でお釣りが666円。これだと500円玉が一枚、

100円玉が一枚、同じように50円、10円、5円、1円が、一枚ずつ

入手できる。

星野 ああ、なるほど。

カノコ でも金属アレルギーだから受け取れないんじゃないの？

朋美 でも「死ぬほどじゃなかった」んでしょうね。地球征服のデータ集め

には、いつかは手を付けなくてはならない代物だった。出来る限りそれぞ

れ最小の枚数を持ち帰るために決死の覚悟で深夜のコンビニに来たわけ

すよ。ジャパン担当のお惚けグループが。

星野 あ、じゃあ、きつと慌てて走り去ったんだ。「ヒュルリララ〜」とか言

いながら。

カノコ それは石川さゆりでしょ？ 何で日本的よ？

星野 だって日本担当なんでしょ？ そいつら。

カノコ ……まあ、そうか……

星野 だいたい森昌子だし。

カノコ ……

星野 あ、じゃあ意外と買ったものを受け取り忘れてたりして。バイトの店員

が「お客さ〜ん、商品〜！」って……

カノコ 千円札は入手できてたの？

朋美 そりやあ紙だから、とつくの昔に。

カノコ 何かもっと簡単な方法があるでしょ？ いちいちコンビニでお釣り

を計算しなくても。

朋美 そつりや仕方ありませんよ、だって彼らはコメディ〜なんだから。

星野 なるほどお。

カノコ ……何かしつくり来ない回答だなあ。

朋美 それくらいがいいんじゃないですか？

カノコ えっ？

朋美 しつくりなんか来ないほうが。パズルの終わりも人生も。

星野 お、なかなか言うじゃない。

朋美 えへへ。

カノコ しつくりか……ま、でもそうかもね。  
朋美 あ、初めて意見が合いましたね。  
カノコ ……フン……  
星野 ま、人によつては余計に後ろ髪引かれるかとも思うけど……  
キム 遅くなりましたあ。

モバイルパソコンを抱えてキムが登場。素早く厨房へ動く朋美。

カノコ 遅い！  
キム だから言ってるでしょ？ 遅くなりましたって。  
カノコ まあそうだけ……  
朋美 （水とお絞りを出して）いらつしやいませ。  
キム ああ、すいません。  
朋美 今日は良ければオーダーなくて構いませんから。  
キム ああ、はい……あ、じゃあでも、コーヒーを。  
朋美 （最高の笑顔で）ブラックでしたよね？  
キム ああ、ええ。  
朋美 ありがとうございます。

厨房に去る朋美。恋でもしそうに見送ったキム、カノコと視線が  
合い表情を崩す。

カノコ 何よ、その目は？  
キム や、結構優秀ではないかと？  
カノコ それは私との比較で喋ってるのね？  
キム や、そこまでの意味では……  
カノコ どうとう私を怒らせたわね。  
星野 まあまあ……  
カノコ ……（厨房に）そういえば私、お絞りもらってないんですけどおろ！

不思議と無言の厨房。

カノコ ……おーい！ シカトかあ……（テーブルを持ち上げる）

星野 （座らせながら）どうどうどう……  
カノコ （肩で息をしている）……  
星野 で？ お前なのか？ 今日の集いの呼びかけ人。  
キム まさか……え、結城さんじゃないんですか？  
星野 それが、行方不明でさあ。  
キム えっ？ うそ……  
星野 あのバカ、頑なに携帯持たないから……  
キム へえ……あ、そうそう、解けそうですよ。例の移動する振込みの件。  
星野 え、どんなん？  
キム 掛川、三浜、能代でしょ？……んで、北海道のホシミ。まずココまで、  
頭文字を羅列してください。  
星野 えっと……  
カノコ ……か、み、の、ほ。上之保かあ……  
キム それで十和田、上野、下呂と続く……  
カノコ と、う、げ……上之保峠！  
星野 その後は？  
キム はい。九州に渡って宮崎の延岡、先々週が佐世保、そして先週は津山  
市から、入金が確認されています。  
星野 津山は岡山か……  
カノコ えっと、延岡の「の」で佐世保の「さ」、津山の「つ」……  
星野 上之保峠「の」……「さ」「つ」。  
キム 何となく次の言葉が連想できません？  
カノコ ……殺人、もしくは殺害……  
キム そう……そして本日が11回目の振込み日なのですが、なぜか今日に限  
って午後2時を過ぎても振込みがないんです。  
カノコ ……どういう事だ？  
星野 待てよ……上之保峠殺人時事件……確か、それって……  
女の声 その通り。  
3人 えっ？  
女の声 流石はデータのキム。まだまだ現役のようね。

見れば黒の衣装を身にまとった、謎の依頼人・赤川はとこ。ただ  
し以降、彼女のネームは理由あって「外波山翠子」と表記される。

星野 あ、アナタは…

外波山翠子 お久しぶりね、星野君。

星野 翠子さん…

カノコ&キム え…

「初対面の」大先輩の登場に暫し思考が止まる2人。

キム …え、じゃあ、伝説の？

カノコ 初代結城組の三羽ガラス…プロファイアの翠子…

翠子 驚かしてゴメンね。はじめまして…でいいのかな？…

星野 でも何で翠子さんが…もしかしてアナタも今回の事件に？

カノコ え、そうなんですか？

翠子 うん。…ま、でも、少し落ち着いて喋りませんか？

カノコ ああ、すいません。

テーブル席の椅子へ着席する翠子。同時に厨房から朋美。

朋美 お待たせしました。

キム あ、どうも…

朋美 (翠子の椅子に向かい) いらっしやいませ。

翠子 …初めまして。

微かに空気が止まる。朋美はゆっくり水を置いた。

翠子 何かお勧めはありますか？

朋美 じゃあ…ロシアンティーなんかいかがでしょう？

翠子 (微笑んで) じゃあ、それで。

朋美 少々お待ち下さい。

何食わぬ顔で厨房へ去る朋美。翠子、ざっと店を見回す視線。

翠子 いい雰囲気ね。

カノコ あ、そうか、店になってからは初めてですか？

翠子 ええ。古いジャズとか似合いそう。

星野 ねえ、急かして悪いけど、早く手の内教えてくださいよ。

翠子 ああ、そうそう、何処から話そうかなあ…あ、そう言えば、昇進したんだって？ 星野警部？

星野 や、僕の話はいいんですけど…まあ、でも長かったですからねえ、あ

あ、一度チャンスはあったんだけど…

カノコ 翠子さんは、最初から結城先生と組んでたんですか？

翠子 ううん。私も流石に生活あるから…キム君の掲示板は見てただけ

ど、こちらからはアクセスしなかった。ごめんね。

キム いえ、見てもらっただけで感激です。

翠子 初めて直接連絡があったのは多分、結城が「上之保」の地名に気づい

てからかな…やっぱ私達が抱えた事件だったから。

星野 やっぱそうですよねえ。上之保峠殺人事件。初代結城組の最後のヤマ。

翠子 星野君もまだ若くてさあ。

カノコ へえ。

星野 でも、あれですよねえ、あの事件の解決後、犯人グループの残党が逆

恨みで…

翠子 …ええ。

キム 何です、それ？ 聞いている？

カノコ や、詳しくは…その辺になると先生もいつもぼやかすし…

星野 うん。事が事だけに、ウチラも極力報道を抑えたからな…

翠子 いいわよ、話して。

星野 はあ…一人だけ取り逃がしていたチンピラがね、結城の息子を誘拐し

たのね。

カノコ うそ…。

星野 チームのメンバーが救出したんだけど、その帰路、車に爆弾が仕掛け

られて…結城の息子もろとも…

カノコ そんなあ…

キム そうか、それが三羽ガラスの一人、トラップの尚吉…

星野 それを機に初代結城組も解散した…で、いいですかね？

翠子 ええ。

カノコ ……全然知らなかった…

トレイを持った朋美が入室。翠子のテーブルへ。

朋美 お待たせしました。

翠子 ありがとうございます。

朋美 いえ……あの、私も同席させていただいて構いませんか？

翠子 ええ、どうぞ。

朋美 一応、私も同好会のメンバーなんで。

翠子 そうでしたか。

カノコ 本来なら、現実の事件とミステリーサークルを一緒にされても困るんだけどね。

朋美 あら？ ミステリーサークルって、田んぼに凶形でも作るんですか？

カノコ ああ、あんな……

星野&キム プツ。

カノコ (キツト睨む)……

星野&キム ああ、いえ……

カノコ ……(別のイスに移る)

朋美 では、ゲームマスターからお許しも出た事だし、サービスはココまでって事で……

星野 えっと？

朋美 じゃあつまり、今回の依頼人もその大昔の怨恨がらみって事ですか？

星野 ちゃんと盗み聞きしてるじゃん。

朋美 あ、

翠子 まあまあ。

キム でも、そうなんですか？

翠子 ううん。最初は私達もその可能性に緊張したんだけど、全くの無関係。どうやらミステリーマニアが高じた金持ちの道楽ね。ただ、少し精神を病んでる感じらしいけど。

星野 え、じゃあ、本当にこの場所を転々として？

翠子 うん。昔の事件を何処からか探り出して、憧れの結城又三郎にトリックを仕掛ける。そして事件の暗号通り振込の場所を変えながら……きつと彼女にとっては最高のミステリーツアーだったでしょうね。

朋美 まさに金持ちの道楽ですね。

カノコ え、ちょっと待って下さいよ、じゃあ事件はもう解決したんですか？

翠子 はい。本日の14時をもって捜査終了ですね。

カノコ うそ。

星野 つまりそれは、結城自ら？

翠子 ええ、ただこのミーティングには間に合いそうもないから私にとって。つまり私はただの代理報告者ね。

キム (入力しながら) 容疑者、いや、自殺志願の依頼人を身柄確保。めでたくゲーム終了。あ、そっか。

カノコ 何よ。

キム だから今日の分は入金されてないんだ。

カノコ ああ、なるほど。

翠子 きつと今頃、銀行近くの喫茶店で、長々としたミステリー談義につき

合わされているんじゃないかしら。

星野 ああ、光景が目には浮かぶ。

カノコ あれ？ でも良く振り込む銀行が特定できましたね。

翠子 さすがカノコさん。お見事です。

カノコ はあ……

翠子 今週が勝負だったの。例えば先週、キーワードから「つ」が予測できたとして、「つ」で始まる地名は到底特定できない。

星野 津和野、津久見、筑波、確かにいろいろあるなあ。

キム 孀恋、津田沼……「佐世保」から、1週間あれば何処でも行ける。

カノコ じゃあ、わざと1週見送ったんだ。

翠子 それで、今週。さっきも出てた通り、殺人もしくは殺害が候補。

朋美 「じ」か「が」ですね。あ、どちらも少なそう。

翠子 とこころが意外と「じ」が曲者だったのね。日本はかつて武家社会だったから。

星野 えっと……城下町？ あ、そうか。

カノコ 何々？

星野 全国各地に城があったわけだよ、この国は。だから地名にも……ほら、

城北、城南、城東区って。

朋美 あ、私の口座も城南支店ですね。

キム なるほど確かに曲者だ。

翠子 城以外にも茨城の常総、秋田の十文字ってね、とても特定はできない。  
朋美 じゃあ残るは「が」ですね。

翠子 ええ。幸い「が」で始まる市町村は全国で唯一つ、振込み可能な銀行  
の支店名も確認しました。

カノコ 凄い、何処です？

翠子 蒲郡市ですね、愛知県。

カノコ ああ、そうかあ。

朋美 じゃあ今日、結城さんも蒲郡市に行ったんだ。

翠子 最後はさすがに。ゲームのルールだったらしいし。

カノコ へえ。

星野 ふーん…悪いけどお水もらえる？

キム あ、僕も。

朋美 はいはい。

グラスを受け取りカウンターへ向かう朋美。

星野 でも何かしつくり来ないなあ…だって、もし「じ」だったらお手上げ  
だったんでしょ？

キム まあ、いいじゃない。解決したんだから。

カノコ そこはそれ、先生の勘でしょ。昔から…

朋美 まさか。

カノコ えっ？

朋美 結城さんはそんなモノに頼ってませんよ。

カノコ カチーン…

朋美 だって、来週のことを考えれば答えは明白。

キム 来週って…あ、そうか。

星野 なるほど。「殺人」を選択したら、途切れてしまうわけだ。

翠子 流石に「ん」で始まる地名は存在しないから。

朋美 どうぞ。

星野 ああ、どうも…

カノコ ちっ…あれ？

キム ああ、そっか、そっちが残ってましたね。

翠子 聞いても落胆しない？

カノコ え、ご存知なんですか？

翠子 結城からの一報だから詳しくは無いんだけど、古い推理小説の登  
場人物から取ったそうよ。

カノコ えっ？

キム そうなんですかあ…

星野 何だ、所詮はミステリーオタク少女の発想か？

カノコ あんなにアナグラム考えたのに。

キム 何だか僕たち、ただの賑やかしみでしたね、今回。

星野 なかなか小説のようには行かんよ。

翠子 別に慰め言うわけじゃないけどさあ。

キム はあ。

翠子 皆がネットや公開ブログで騒いでいてくれたお陰で、依頼人も自信を  
持って動けたんじゃないかな。

キム つまり、逆に計画通りに進めさせたよ。

翠子 それに…本気の自殺志願だった可能性もあったわけで、ほら、自分の  
所為で大事になって、それを観察している間は、何？ 死ぬ気が抑制で  
きるんじゃないかしら。

星野 なるほど…や、流石に翠子さん。

カノコ そっか、そうよね…私達の解析も先生の推理に一役買ったようだし、  
ここは喜ばなくちゃね。結城又三郎・復活の事件の解決を。

キム 僕、実はさっき一瞬、鳥肌立ってたもん。

カノコ うん私も。久々にドキドキした。

星野 何だかあれだな、今日の集まりはそんな俺達への結城流の労いだった  
んじゃないかな。

翠子 ああ、でももっと具体的な労いもあつてね。

星野 どういう事です？

翠子 (腕時計を見て) 駅前の「ひさご」が取ってあるからって。もういつ  
でも入れるはずよ。結城君も終わり次第駆けつけるだろうし。

カノコ うわあ懐かしいなあ。いつもあそこだったよね。事件解決の打ち上  
げは。

星野 そうなんだ。

キム アナゴ焼きが絶品なんですよね。あ、よだれ出てきちゃった。

カノコ じゃあ、ま、パーツと向かいますか、朋美ちゃんも。



朋美 え、いいんですか？ 私も。

カノコ ちよっと見直した。それに……宇宙人論議はまだまだ突っ込み入れたいし。

朋美 じゃあ、受けて立ちます。

星野 行かれますよね？

翠子 ええ。あ、ただ、ちよっと別件でクライアントからの電話待ちで……

キム ああ、あそこ地下だからなあ。

翠子 もう少しだけ待ってみます。どうぞお先に。

星野 じゃあ、行かか。

カノコ 絶対来てくださいなね。聞きたいエピソードがてんこ盛りですから。

翠子 ええ、必ず。

適当にガヤリながら去る面々。少しして戻ってくる朋美。

朋美 財布忘れちゃって……

翠子 またまたあ。

朋美 お疲れ様でした。

翠子 和蔵さんから多少は？

朋美 ええ……いっそぶち壊したい衝動もあったんですけど、流石に一番悲しむのはココの面々かなって……

翠子 そう。ありがとう。

朋美 いえいえ……謎解きは本当に楽しかったし……

翠子 あなたもしかして結城のこと……

朋美 真っ先に忘れるようにお伝え下さい。私も今夜飲んで忘れま

翠子 私も、会う覚悟ができてないんですけどね。

朋美 じゃあ、一緒に忘れましょう、だって……

翠子 だって？

朋美 探偵に、今の世の中は救えないでしょ？ どうあがいても。

翠子 ……確かに……

軽く会釈し去る朋美。やがて厨房から和蔵が登場する。

和蔵 お疲れ様でした。

翠子 どうも。ご協力感謝します。

和蔵 いえいえ、僕は結局逃げちゃったから。

翠子 優秀な部下をお持ちですね。

和蔵 それはどうかなあ……何か飲まれます？

翠子 いえ、本当に。

和蔵 じゃあ……少しだけいいですか？

翠子 ええ、覚悟しております。それに、結城にも頼まれて……ああ、でも

その前に……

和蔵 何でしょう？

翠子 アナタが何も問いたださずに、ただただ傍に居てくれたこと。結城は

何度もそれに感謝をしていました。

和蔵 そうですか。

翠子 2人で電車を乗り継いで、何年ぶりか、2つの墓参りを済ませ、専用

ホスピスに着くまでの間、ほんとに何度も。

和蔵 そうですか、入りましたか、安住の地に……

翠子 とても清潔で静かなトコロです。

和蔵 お墓の一つは、例のお仲間？

和蔵 はい。本名・喜沢尚吉。私達が死なせてしまった同僚です。

翠子 でも、あくまで相手のある犯罪でしょ？

和蔵 ええ……亮太君が拉致された場所が3つまでしか絞れなかった。私達は

それぞれの場所に単独でむかい、尚吉君から無事保護の知らせを受けまし

た。比較的场所の近かった私と結城は先に合流し、安心と事件解決の興奮

の中、私達は倉庫の中で体を重ねていたのです……

和蔵 ……じゃあその頃から結城は奥さんと……

翠子 ええ……もしかしたら、私の中の嫉妬心が、事件をミステイクに導い

たのかも知れません。

和蔵 ……なるほど……

翠子 半年前、十数年ぶりに彼から電話をもらい、病気の事を聞きました。

多分、明日起きたら、君の事を忘れていると。どうやら都合の悪い記憶が

優先されるらしい。君の事と事件の事、それを真っ先に捨てる予感がする。

……そんな内容でした。

和蔵 じゃあ、その時点で結城はアナタに依頼したのですかね？ 自分の記憶

を、死の直前に、自ら探偵するための依頼を。

翠子 はい。ただ、最初は少し違っていました。彼は、私に殺害を依頼したのです。もし自分の事務所を尋ねて、私の事が判らなかつたら、その時点で自分を殺すようにと。

和蔵 ばかげてる。

翠子 ええ、もちろんそんな事は受けられません。ただ彼はこうも言っていました。明日目が覚めれば、自分は死の願望まで亡くしているだろう、死すべき自分の過ちや償いすら忘れるんだ、って。今まで、死の代償としてかろうじて生きてきた。それら全てがリセットされる。それはとても耐えられない。それは余りに悲しすぎると……

和蔵 なるほど……アナタだからすがれたわけだ。

翠子 最初にこの店を訪れた時は、まだ半信半疑でした。でも、欠片も私を覚えていない結城を見て、私は急速に決意しました。華麗なまでに演技すること。あくまでノスタルジックな彼の、最期の事件に相応しいように。

和蔵 見事なシナリオです。記憶の無い彼が、自分の推理力でのみ辿り着けるような構成。おかげでヤツは、誇りを持って事件に挑み、全てを察し、旅立ちのきっかけを掴んだ。……そして何より最期の最期まで、探偵で居られ続けることが出来た。あいつは幸せ者です。

翠子 そう言って頂けると……やとと報われた気がします。

翠子 ……5日前、彼が姿を消す前々日ですね。明け方、結城から電話をもらいました。彼は長く慟哭した後で「犯人は僕だね」と告げました。

和蔵 なるほど。事件を解決した瞬間ですね。

翠子 ……これでやっと「近い記憶」に定着できました。ちゃんと自分の罪を背負いながら死んでいけそうだって……

和蔵 ええ。……や、それだけじゃない。

翠子 えっ？

和蔵 あなたの記憶も、ですよ。

翠子 和蔵さん……

和蔵 ……アナタへの連絡先はどうやって？

翠子 はい。最初に渡した小切手の7桁の額面。

和蔵 ああ、なるほど。さすが結城……というか……アイツにとって「都合の良い記憶」だったようですね。

翠子 ええ。

和蔵 ……えっと、振込みはご自身で？

翠子 ええ、知り合いのいない土地には何箇所か。昔のツテはなるべく避けたいから……今では感謝してるんです。私にとっても最後の事件……見知らぬ土地をめぐるながら、いろいろ救われた気がします。

和蔵 ぜひ後遺症にならない様に。

翠子 (微笑んで) そうですね。

和蔵 飲みに行かれますか？

翠子 いえ、流石に……皆には悪いけど、私もまとめて消えようと思いません。

和蔵 なるほど。

翠子 先ほどの彼女が言った通り、探偵なんて事件が起きなきゃただの社

会不適合者です。とても世界は救えません。

和蔵 そうですね。……じゃあ最後に……これはアナタに、ぜひもう一度呼んで欲しい言葉のために言うのですが……

翠子 (微笑んで) どうぞ。

和蔵 失礼ですがアナタの苗字は鳩山、もしくは外波山ですね？

翠子 お見事。……後者ですよ、ワトソンさん。

佇む2人を残し暗転。

カノコの声

【SCENE/8】 暗いままの舞台。前シーンからブリッジのジャズ楽曲が、そのままレベルを下げて流れている。

カノコの声

明かりが入る。2ヶ月ほど経った、シエスタ間近の「わくら」。最後の客を見送り、店内に戻るカノコ。ジャズはそのまま店内BGMに見立てられている。器を下げに厨房に一旦消えるカノコ。BGMもアウト。再び出てきたカノコは労働意欲失せ、テーブルに伏せて動かなくなる。やがてすっかり冬服の星野が登場。

星野 おいおいおいおい……あれ？

カノコ ……

星野 おいおいおい、本当かよ。

カノコ だから何？

星野 えっと、じゃあ：まずお前。

カノコ ああ：仕方ないでしょ？ 旦那の転勤なんだから：

星野 にしてもいきなりオマーンってのは：

カノコ じゃあ何？ 少しずつ近づけばいいわけ？ 韓国、ビルマ、インド、

パキスタンってか？ ラブワゴンかつつうの！

星野 あ、いいなあ、それ。

カノコ だから何が！

星野 ああ、いや：えっとそれから：

カノコ 朋美ちゃんが急に辞めて、マスターは行方不明。一説には実はマス

ターの本命は朋美ちゃんだったのかも、だって。

星野 ああ見えて、広いからなあストライクゾーン。じゃあ、キムは？

カノコ それが、休暇中にナンバー2の奴が派閥作りかけてたとかで。

星野 へえ。

カノコ ちよつと絞めてくるとかって。

星野 うわあ、出るなあ、得意の泣き脅しが。

カノコ 泣き落とし、じゃなくて「脅し」だからね。

星野 想像に耐えんなあ：んで、再びお前。

カノコ 何よ。

星野 別に開けなくてもいいじゃん、店。

カノコ やること無くてさ：：

星野 子育ては？

カノコ ジジババにさらわれ北海道旅行。今生の別れみたいな感じでき。

星野 ふーん。じゃあ結城組も自然消滅か。

カノコ 当たり前でしょ？ 結城も翠子も結局打ち上げに顔出さずに、それ

つきり消息不明。

星野 お、いきなり呼び捨てかよ。

カノコ で、そっちは：

星野 ああ：調停成立。晴れて独身：。

カノコ ふーん。ま、でもさ：いい夢見させてもらったよ。

星野 そう？：

カノコ うん：毎日事件に囲まれてるあんたには、到底判らんだろうけど。

星野 (可笑しな声で) ところが謎は残っていた。

カノコ 誰よ、それ。

星野 しかも3つも。(メモを取り出し) どれから行く？

カノコ 暇なんだな、さては。

星野 おお、これからね、よし：ほら、例のオレ宛に送られた謎の手紙。

カノコ ああ、切り抜き文字？

星野 何と便箋が炙り出しになってたんだよ。

カノコ いったの話だ：

星野 でね、そこに何か、この推理に感心を持たれたなら、ぜひ今後もお見

知り置きをって。

カノコ 新手の売り込み？ 連絡先は？

星野 や、さすがにそこまでは：ただ、最後に「女子大生探偵・大東冬実」

って。心当たりある？

カノコ 全然。

星野 だからほら、客とかにさあ。

カノコ や、知らん。

星野 そ。

カノコ 次。

星野 ああ、えつとね、そうそう、ほら、結城が依頼人を確保した愛知の蒲

郡支店だけどさあ：翠子さん、全国で唯一とか言ってたよなあ。

カノコ ああ、うん。え、違いの？

星野 鹿児島と滋賀に「蒲生町」ってのがあってね。前者は確かに正式には

「かもろ」って呼ぶらしくて、後者は最近の町村合併で町としては消えて

るんだけどさあ。

カノコ だったら問題ないじゃん。

星野 や、でも両方とも支店はちゃんと存在するし、普通に検索したら「蒲

生」はすぐ見つかるのよ。さらに、該当する銀行の蒲郡支店が結構大きく

てね、ATMがずらうってね。

カノコ わざわざ行って見たの？

星野 よく振り込み直前に確保できたなあって：：

カノコ ……だって、結城さんは相手の顔見て知ってるわけだし：

星野 そうなんだけどね：

カノコ ……で、最後。

星野 ああ、うん：：正式には「赤」の反対色は「緑」なんだって。

カノコ ああ、まあ、そうかあ。

星野 川を山に変換するのは、まあ一般的として……

カノコ ……何が言いたいのかよ……

星野 初代結城組の翠子。本名調べたら外波山だった。

カノコ えっ？……ハ、ト……トハ、ヤマ……あつ！

星野 トバヤマドリコ。まあ、「は」と「ば」の濁音差は残っちゃうんだけ

どね……これも偶然かなあ……

カノコ 偶発の否定こそが、目的もしくは動機を発生させる。

星野 おつ、出た。結城の格言だな。

カノコ にしても何でだ？

星野 さあ、そこまでは……

事務所の扉が勢い良く開く。リュック姿の知妹が駆け込む。

星野&カノコ うわお。

知妹 あ、ゴメン。

カノコ ああ、いや……え、何？ クラブの合宿？

知妹 ……ふーん。さすが余裕だね。

カノコ だから何が？

ポケットをまさぐって紙切れを出し、カノコに渡す知妹。

カノコ え、何？……結城又三郎を探せ、ミステリーツアー？

星野 必ず男女1組で応募して……あ、じゃあ……

知妹 てっきり俺達が最後かと思ってた。

カノコ うそ……じゃあマスターと朋美の奴が組んで？

星野 あれ？ でも俺達ってのは？

知妹 うん……友達と。

星野 や、友達だったって……

知妹 約束の1ヶ月が過ぎたから解禁なんだって。

星野 何だそりゃ……だいたいお前……

知妹 じゃあ、悪いけど。

星野 あ、おい！

ダッシュで去る知妹。チラシを見たままのカノコ。何か嫌な予感に、後ずさる星野。しかし、店を出るまでの猶予はなかった。

カノコ 不味いな……

星野 ……え、そうなの？……

カノコ 出国まで10日だ……行くよ。

星野 えっ？……や、だってオレ公務員……

有無を言わず連れ去られる星野。暫し無音、無人の舞台。照明が実にゆっくり絞られていく。何処かから絞ったささやき声。やがて奥の扉がひとりでに開き、やがて中から翠子。彼女は何かブツブツつぶやいているが、それは必ずしも聞こえなくて構わず、また彼女もそれを目的にはしていない。例えばこんな感じだ。

翠子 ……その時私が気にかけていたことは、今後、その行為によって、私の

精神的な営みが、何者かによって抑制されはしないか、という恐れだった。だいたいその船は、私が想像していたよりもはるかに小さく、みずぼらしいものだったし、つい先ほどまで私に言い寄っていた、シチリアの実業家と名乗る中年男性は、向こうの端で静かな寝息を立てている。いつもそうだ。私はいつも警告してきたはずだ。見ず知らずの他人なんてものが存在するならば、それは見るまでの話じゃないか。一旦見てしまったら、見ず知らずではなくなるのだから。そう、何度も警告を発したのだ私は。知らない大人についていってはいけないというあの標語にも。誘拐犯の口として、どうして知らないままの関係で子供を手懐けようとするだろう。否。子供達はみな、その他人についていこうとする頃には、その相手は既に知っているおじさんに進化しているのだ。だからこそ私は……

翠子の目的を持たないモノローグは、彼女がカウンターへ向かい、水をゆっくりグラスに注ぎ、テーブルに運ぶ間も続いている。まるで駅や公園で時折見かける、多分、社会に馴染めない「語り人」のように。椅子に腰掛け、改めてコップの水を凝視したところでセリフは唐突に終わる。やがて、自分のペンダントに意識を運び、不思議そうにゆっくり蓋を回転させる。まさに蓋が開いた

とき、入ってきた人影が声を掛ける。

千鶴 だめよ、それは。

翠子 先生……

千鶴 勿体無いじゃない。

翠子 でも……

千鶴 いつでも飲めるでしょ。アナタの好きな時に。

翠子 ……

千鶴 誰もその自由を奪えない、でしょ？

翠子 そうか……そうですか……

千鶴 いいから静かに蓋を戻して。

翠子 はい……

言われたようにする翠子。テーブルに近づく千鶴は、それでも決してロケットを取り上げようとはしない。彼女は喪服である。

千鶴 きつとココだと思ってた。

翠子 ……

千鶴 (自前の日本酒を取り出し) 連れ出すのも無理かと思つてさ。

翠子 ……お酒……

千鶴 ちよつと待ってね。

カウンターからグラスを2つ持ってきて。それぞれに注ぐ千鶴。渡されたグラスを両の手で包む翠子。乾杯はせずに、それぞれでちびちびやり始める2人。

千鶴 酒で繋ぎとめる医者もどうかと思うけど……ま、今日だけは……

翠子 いと、おむら……

千鶴 えっ？

翠子 ……らいむ、おと……

千鶴 お得意のアナグラム？

翠子 いと、おらむ……

千鶴 ……判んないって……

千鶴

……誰が流したのやら。

ふと、静かな楽曲が低めのカットイン。

静かに溶暗する舞台。2人の視線は2度と絡まず、暗転。

おしまい。